

であつて、戦前所要額の僅に二割を充すに過ぎなかつた小麦の自給を六割まで引上げる事を目標として居る。今日に於ても此種の議論は次から次へと絶えず行はれて居るけれども、實際には英國の農民は此方面に於て一向進歩らしい進歩を示して居らぬのである。是れ小麦を首め、肉類、羊毛其他多數の農産物の海外市場に於ける低廉なる價格を以てしては英國の農民は到底有利に其生産を擴張する望みがなかつた爲めである。ジェー・ウィルソン氏は英國の立場から見た小麦の地位を左の如く評して居る。

抑も小麦相場の崩落は言ふまでもなく小麦の世界的生産過剰を意味して居る。現在（一九二三年十一月）のリヴァプールに於ける相場は一九一三年の平均價格に比すれば一割八分方上位にあるけれども、之を一年前に比すれば一割四分の低落を示して居る。之に反し英國の物價指數は一九一三年に比し五割、賃金は一九一四年七月に比し七割五分の昂騰を示して居るのであつて、此比較から言つても英國の農民が小麦を有利に生産し得べき餘地

は殆どないと言つて差支ない。隨て英國に於ける小麦の作付面積は減る一方である。加之世界に於ける小麦の五大輸出國間の競争は益々激烈ならんとする傾向があり、少くとも近き將來に小麦價格の恢復を期待する事は困難であらうと思はれる。

だから農民をして其生産を擴張せしむるには農産物價格がそれを刺戟する程度に高い事が必要なのであるが、工業者に取つては、食料や原料品の高い事はその製品を輸出する上に於て非常な妨げとなる。英國の工業は農業の犠牲とすべく餘りに大きい、といふ事を忘れてはならぬ。之に比すれば、爲替相場の點に於て、將又運送並に信用設定の點に於て英國よりも困難の地位にある歐洲大陸諸國の方が遙に自給策の實現に可能性を有つて居る。

最近佛國の農業界に現はれた變化の中最も目に立つものは、小麦の増産と葡萄酒の減産とである。葡萄酒の減産は獨逸に於ける購買力の減少、英國に於ける失業者の續出、北歐諸國の不景氣並に米國に於ける禁酒法施行等の爲めに利益が減少した爲めであつて、葡萄酒は續々他の

食料品生産の目的に置替えられつゝある。一九二三年に於ける葡萄酒の生産額は一九一〇年の約半額に過ぎない。

更に此處に特筆すべきは、佛國が北アフリカの屬領地に於て小麥其他の作物を擧ぐるに至つた事實である。その發達は佛國の自給政策に重大なる關係を有つて居るのであつて、大體から言へば、佛國は本國に於て目的を達し得なかつた食料の自給を將來此方面に於て實現し得るものゝ如くに思はれる。豚肉と小麥とは佛國が從來米國の供給に依頼して居つたものゝ二大頭目であつたが、此二者も戰亂前までには餘り大した問題ではなくなつて仕舞つた。小麥の如きは佛國及ひアルジェリアの出來次第では、最早や海外から輸入する必要がなくなるだらうとまで言はれて居る。佛國は近く消費者の利益のために小麥關稅の引下げを餘儀なくせられたけれど、同國當局の小麥消費節約及び代用品獎勵に對する努力は實に目覺ましいもので、今や着々其効果を統計の上に現はしつゝある。

米國の對佛小麥輸出額 (單位アッシェル)

一九一三年	五、三五三、〇〇〇
一九一四年	二六、一三〇、〇〇〇
一九一五年	三二、三三四、〇〇〇
一九一六年	二二、三一九、〇〇〇
一九一七年	一一、六七六、〇〇〇
一九一八年	六、三八六、〇〇〇
一九一九年	二七、五九一、〇〇〇
一九二〇年	二六、四四五、〇〇〇
一九二一年	八、九八八、〇〇〇
一九二二年	一三、〇二二、〇〇〇
一九二三年	五、四三九、〇〇〇

戦前歐洲諸國中英國に次で食料に不足を感じて居つたのは獨逸である。獨逸は普佛戰爭以來國內の急激なる工業化に追はれて増殖しつゝある國民を自ら養ふべく願て居る暇がなかつたのである。のみならず、休戦以來獨逸の事情は更に悪化した。その重なるものを舉げて見れば次の如くである。

(一) 戦死、移住、産兒制限等に原因する人口の減少

(二) 優良なる農業地の喪失

(三) 生活標準の低下

(四) 工業品輸出の衰微による購買力の減退

以上の事情から見れば、獨逸が近き將來に於て自給自足國になるといふ事は想像し得ない所である。殊に獨逸は戰爭の結果最も重要な農業地域を失つたので、今日の獨逸は舊獨逸帝國よりも更に一層工業的であるべく運命づけられて居る。併し獨逸の工業は今の所殆ど望みがない

そこで曩に工業熱に浮かされて田園から都會へ吸収された人口が、今度は其方向を變へて、出来るだけ耕作地を開拓しようとなつて田舎へ戻つて来る。その力が最近如何に強く活いて居るかは、次の重要農作物生産表を一覽すれば明瞭である。(單位一〇〇〇キントル)

小 麥

重要穀類

馬齡著

一九一三年	四〇、四四〇	二五八、三七一	四四〇、二三四
一九一九年	二二、五〇三	一四二、三〇五	二二二、六一八
一九二〇年	二二、四七六	一三八、〇〇九	二七八、七七二
一九二一年	二九、三三八	一六六、七六四	二六一、五一四
一九二二年	一九、五七七	一二八、一四八	四〇六、六五〇
一九二三年	二八、九六八	一七八、一一九	三二五、八〇二

獨逸の農産物が最近二三年間に非常な増額を示し來つた事は右表によつても明かであるが、

更に實際の生産能力は此統計の數字以上であるべき事を推定せしむる理由がある。第一は最近農民が課税の負擔を軽減せんが爲めに産額を故意に内輪に申告するに至つた事、而して第二は農民が財界に對する恐怖から生産の全能力を發揮して居らぬといふ事である。されば馬克の相場が依然今日の慘憺たる状態を繼續するか若くは更に悪化したとすれば、獨逸の海外よりする農産物の輸入は、尙ほその幾分かを切詰め得べき餘裕を有つて居ると見るのが妥當であらうと思ふ。

小麦の輸出が、一九二二年の三千萬ブッシェルから僅々五百五十萬ブッシェルに落ち込んだ事と、ラードの輸出が三億七千七百萬封度を超え、一八九八年の最高記録一億三千九百萬封度を遙に抜いた事とは、共に昨年の米國對獨貿易中特に注目すべき事項であるが、獨逸に輸入された此ラードの大部分が更に他國の産物と交換する爲めに獨逸から再輸出されたといふ事は、如何に米國が供給過剰に苦んで捨て賣的態度に出たかといふ事を窺ふ資料とされて居る。

更に獨逸の爲替相場が如何に微妙な關係を米國の輸出の上につかといふ事を如實に示した面白い一例がある。それは獨逸が一九二三年末金本位のレンテンマークを再發行するや、爲替相場は俄然奔騰したに拘らず、僅々二箇月間に米國よりの豚肉、豚脂の對獨輸出が却て三分の一方減つて仕舞つたといふ事實である。これなどは獨逸の農民が如何に餘力を有つて居たかといふ事を説明する好箇の材料である。少くとも一九二三年に入つてからは獨逸の農民は殆んどその生産物を都會地に賣る事を中止するに至つた。全く無價値な通貨で支拂はれるよりは、その生産物で家畜類を養ひ他日に備へる事の賢なる所以を發見したからである。さればレンテンマークの出現によつて市場が稍好轉するや是等の家畜は一時に市場に現はれた譯で、米國の輸出業者が面喰つたのも無理のない話である。

伊太利も亦農産物の不足を感じつゝある國の一つである。けれども今日では棉花、棉實油及び煙草を除けば、米國農産物の對伊輸出は寧ろ不振と評すべきであらう。戦亂勃發の當時あの

やうに素晴らしい勢ひを示して居た米國小麥の對伊輸出が減退したに就ては、露國其他の隣接國よりヨリ有利に之を求め得る機會を得た事も無論その一原因であるけれども、爲替相場の關係上價格が餘り高かつたので、遂にファスチスチ内閣の農業教育獎勵、自給策の宣傳となつて現れた事も大に與つて力がある。最近南歐諸國に於て棉花及び煙草の栽培が刺戟せらるゝに至つた事も亦注目し値する。最近に於ける主要農産物の産額を示せば左の如くである。(單位キントル)

小麥

大豆

燕麥

一九〇九年より一九一三年に至る平均	四九、八九六、〇〇〇	二五、四八六、〇〇〇	一五、三六三、〇〇〇
一九一九年	四六、二〇四、〇〇〇	二一、八〇六、〇〇〇	五、〇三六、〇〇〇
一九二〇年	三八、四六六、〇〇〇	二二、六八五、〇〇〇	三、五一六、〇〇〇
一九二一年	五二、四八二、〇〇〇	二三、四五二、〇〇〇	五、四八三、〇〇〇

一九二二年 四三、九九二、〇〇〇 一九、五〇七、〇〇〇 四、四二二、〇〇〇
 一九二三年 六一、一九〇、〇〇〇 二二、三七八、〇〇〇 五、七八一、〇〇〇

家畜類の統計は明瞭でないけれども、これとても幾分増加して居るといふ觀測が當つて居るらしい。斯くして伊太利に於ける農産物の生産力は最近素晴らしい勢ひを以て恢復に向つて居る。爲替相場暴落の障礙がないとしても、米國の對伊輸出は決して有利に展開しつゝありとは言はれない。

舊埃匈帝國は農産物の自給に事を缺かなかつた。併し是れ埃太利の工業と匈牙利の農業とが國內的分業としての調和を保ち得た賜であつて、兩國が分離して仕舞つた今日に於ては、埃太利は完全に食料不足國の一つである。随つて同國の爲政家は何とかして昔日匈牙利によつて保障されて居つた丈けのものを埋合せようとして色々な努力を續けて居る。米國農務省の報告によれば、埃國は現在の縮小されたる領土内に於て既に戦前に於けると略同様の耕地を恢復し得

たといふ事である。戦亂直後の衰れな状態から此所まで漕付けた彼等の積極的態度は寧ろ稱讚に値する。同國の農業が種子の改良、新式機械の採用及び肥料の増加等によつて更に一段の活氣を呈するに至るべきは想像に難からざる所であり、又同國の當局者が現に企てつゝある現行土地法の改正即ち土地細分相續制度の撤廢に成功するならば、同國の農業界は恐らく面目を一新するだらうと言はれて居る。

尤も如何に最負目に見ても、奥國がそれが爲めに一躍農産物の自給國に轉換するだらうとは思はれぬが、現に同國が次第に匈牙利其他の隣接國からの農産物輸入を減じ、それ丈け匈牙利其他の農業國をして米國農産物の競争市場たる西部歐洲への輸出力を増大せしめつゝある事は否定すべからざる傾向である。

(B) 供給過剩國

歐洲に於ける輸出農産物と言へば先づ(一)和蘭、丁抹の豚並に馬鈴薯(二)ダニユーブ流域諸國の穀類(三)露國の穀類、鶏卵、牛酪等を以てその重なるものとする。

和蘭及び丁抹は無論戦亂の大打撃を蒙つたけれども、今日では殆どその戦前の状態を恢復し、侮り難き米國の競争相手となつて居る。就中丁抹のベーコンの如きは、既に英國市場に於て米國品と競争の火蓋を切つたのみならず、高く築かれた關稅の障壁を踏えて深く米國內にまで侵入し、一九二三年の例を以て言へば、九百五十萬封度即ち前年に比し五割以上の増額を示して居る。又露國及び羅馬尼から丁抹及び和蘭に對し大麥、油槽等の輸出が開始された事も米國に攻つては打撃であつた。それだけ米國の玉蜀黍其他の家畜飼料に對する需要が減じたからである。又一九二三年の最初の五箇月間に露國より丁抹に輸入された向日葵並に、亞麻仁の數量は五萬噸に上り、其價格は米國品の噸五十六弗に對し四十三弗の唱へであつた。

ダニユーブ流域の諸國即ちルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラヴィア及び匈牙利等にあつては農産物の産額は減退の傾向を示して居る。大戰の創痍がまだ癒えない爲めでもあるが、是等諸國には又別に獨特の原因の存在して居る事を見通してはならない。それは新しい法制が

舊時代に於ける土地所有の制度を破壊し去つた結果、農民の生産力を刺戟しなくなり、農民は唯必要の分量を生産するのみで、輸出に對する餘剰といふものを餘り眼中に置かなくなつたからである。併し這は要するに農民自覺の問題である。今日當局の探りつゝある施設訓練が徹底すれば、永い間には或は自由人としての労働効果が現はれて來るかも知れない。カーネギー研究所のナース氏は是等の諸國の將來を豫言して、結局小麥の不足は免れまいが、農産物全體としては優に自給の域に達すべく、國民の生活状態は戦前に比して遙かに向上するであらうと言つて居る。上記四國の農産物收穫状態を表示すれば次の如くである(單位一〇〇〇キントル)

	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
小 麥	四六、八七九	五七、八八六	六二、三〇〇	七六、五五六
ライ 麥	一〇、六八四	一一、二一二	一一、七六八	一四、四〇二
大 麥	二四、三七〇	一九、二七五	三〇、二五五	二六、一七二
燕 麥	一七、四〇四	一六、五三〇	二〇、六一八	一七、二二二

玉 蜀 黍	八九、九六七	五九、一三六	六八、四二八	九六、九八四
馬 鈴 薯	三八、二五三	三三、七七七	三二、二九〇	四一、三三一

チエツコスロヴァキアは大體から言へば農業上の自給は出來ぬ國である。何となれば東部農業地帯の生産よりも西部商工業地帯の消費の方が大きいからである。併しその農業地帯に於ける生産状態は既に戦前の状態を恢復し、家畜類の如きは戦前に比して遙かに増加して居る。米國農務省のミツチェル氏は茲數年ならずして、東部獨逸市場の米國産ベーコン及びブリードは、此チエツコスロヴァキアの製品の猛烈なる競争を感じるに至るであらうと言つて居る。

波蘭は戦後可なり深刻に農産物生産減の苦痛を嘗めて居たが、一面價格の騰貴が次第に農産物に對する生産を刺戟したので、今日では殆ど戦前の水平線まで恢復したと言はれて居る。現に一九二一年以來國內の供給は遙に需要を超過して居つたが故に、若し政府が國內の生活費増加防止のために採用した輸出禁止の方針を繼續して居らなかつたならば、輸出額は相當の分量

に上つたらうと思はれる。剩へ波蘭の輸出と言へば獨逸諸國に對するライ麥及び豚を主として居つた關係上、今日の如き爲替相場の状態では事實上輸出は自然に制限されざるを得なかつたのである。波蘭が此状態を切抜ける爲めに、國內の工業を奨励して工業品輸入防遏を計畫するに至つたのは面白い現象である。されば歐洲の諸工業國が其生産能力を恢復した時は即ち波蘭の農産物に對する餘力が輸出品となつて現はれる時であるが、現在の所では米國同様その農民は小麥と豚の洪水に弱らされて居る。

曾て歐洲に於ける最大農業國であつた露國の輸出能力は戰亂から此の方スツカリ攪亂されて居る。随つて露國の復活は中歐諸國の大なる期待であり又同時に米國農民の大なる恐怖である。一九一四年の夏から八年間、露國は殆ど全く輸出市場の圏外にあつたと言つて可い。併し昨年の作物反別は前年に比して二割の増加を示し、本年二月十六日の米國商務省報告によれば、露國は現に百萬噸乃至百五十萬噸の穀類輸出餘力を有つて居るとの事である。此數量は戰前の積

出數量の約一割三分にしか當らないけれども、最近露國は、英、佛、獨、丁、諾、澳、希、蘭等戰前の顧客との間に通商關係を再開する事に成功した事ではあり、是れから農具及び製造機械を輸入する必要上、今まで政府の手に押えられて居た農産物も愈々輸出の形式を探る事であらうと思はれる。素より露國が生産及び輸出の方面に於て戰前の状態に立歸るといふ事は容易な業ではないけれども、歐洲諸國との通商關係さへ復活すれば、露國の生産力は案外躍進的發達を示すかも知れない。既に六萬七千噓を耕作する露獨合辦の會社が特許されたり、伊太利も亦此種の特許會社を組織せんとしつゝあつたりする有様であつて、米國の農業者にとつては決して樂觀を許さざる形勢が暗示されて居る。況や米國の農産物は價格の點に於て到底露國農産物の敵ではないし、消費者たる歐洲諸國との距離的關係に於ても更に又爲替關係に於ても非常に不利の地位に置かれて居るのである。米國が氣を揉むのも無理はない。露國の統計なるものは元來餘り正確ではないらしいが、米國農務省の發表した數字を參考のために借用する。

小	イ	麥	七六〇、一九一、〇〇〇	一九一三年	アツシエル
ラ	イ	麥	七四七、九四五、〇〇〇	一九二三年	アツシエル
大	麥	四二〇、二四三、〇〇〇	二〇三、七七八、〇〇〇		
燕	麥	九三三、五六二、〇〇〇	四九〇、〇一六、〇〇〇		
馬	薯	七五六、五一五、〇〇〇	一一六、〇六九、〇〇〇		
牛		四六、三四五、〇〇〇	三五五、六六四、〇〇〇		
羊	及	八一、二四〇、〇〇〇	七一六、五七七、〇〇〇		
豚	山	一三、六〇六、〇〇〇	三五、〇二五、〇〇〇		
	羊		四七、七〇六、〇〇〇		
			七、七六〇、〇〇〇		

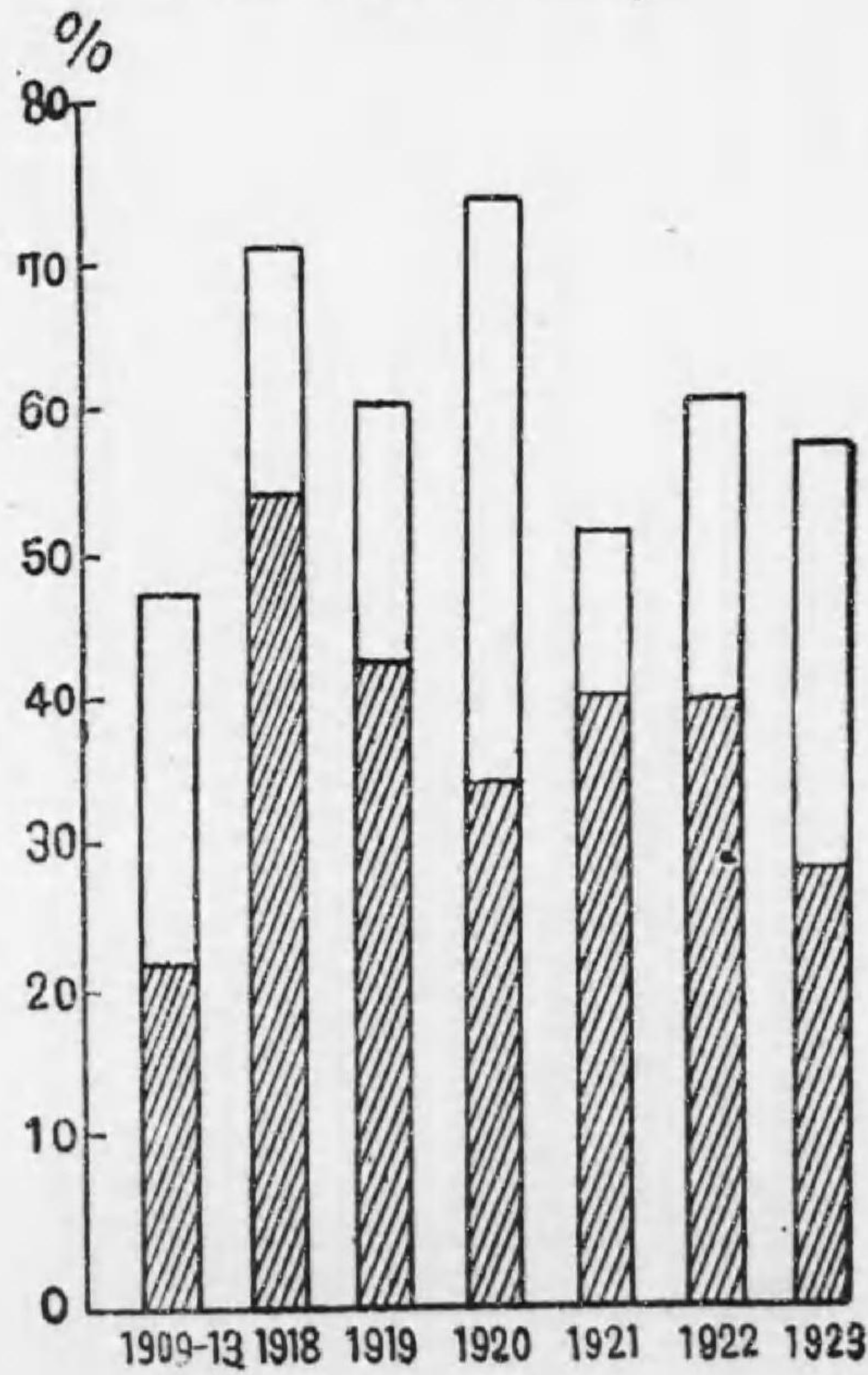
斯く觀じ來れば、歐洲に於ける農産物の自給は棉花を除けば或は實現される時期が來るのではなからうかとの考へが自然に浮んで來る。假令その時期は來ないとしても一步々々彼等がそれに近かんと努力しつゝあるといふ事實は到底之を否定する事が出來ない。米國の側から言へ

ばつまりそれだけ引け目である。加うるに濠洲、南米、印度、加奈陀といふ大敵が前後左右に控へて居る。米國に於て經濟政策の建直しが近時喧しく論議される所以である。

第五節 歐洲以外の農産國との競争

ブラジル其他南米の北部地方は歐洲に對し珈琲、護謨等の所謂熱帯産物の供給者たるに過ぎぬけれども、亞爾然丁に至つては純然たる米國農産物の競争者である。亞爾然丁が歐洲の市場と交渉を持つに至つたのは米國よりも遙に後のことであるけれども、それだけ米國よりも期待すべき未來を有つて居る。少くとも同國では市街地並に工業の發達が、米國に於ける如く農業の生産を壓迫しないのみならず、その生産價格の如きも米國に比すれば遙かに低位にある。現在の小麥耕地面積が其目的のために耕し得べき土地のやつと十分の一に過ぎぬといふ事實が其の凡てを物語つて居るではないか。亞爾然丁の農産物生産現態はざつと次表の如くであるが、

米國及亞爾然丁より英國へ輸入し
たる小麦並に玉蜀黍の比較年次表



米國 (斜線) 亞爾然丁 (白)

つたかを明かにする爲、茲に英國市場に於ける米亞兩國の供給の比較を圖解して見よう。尤も豚

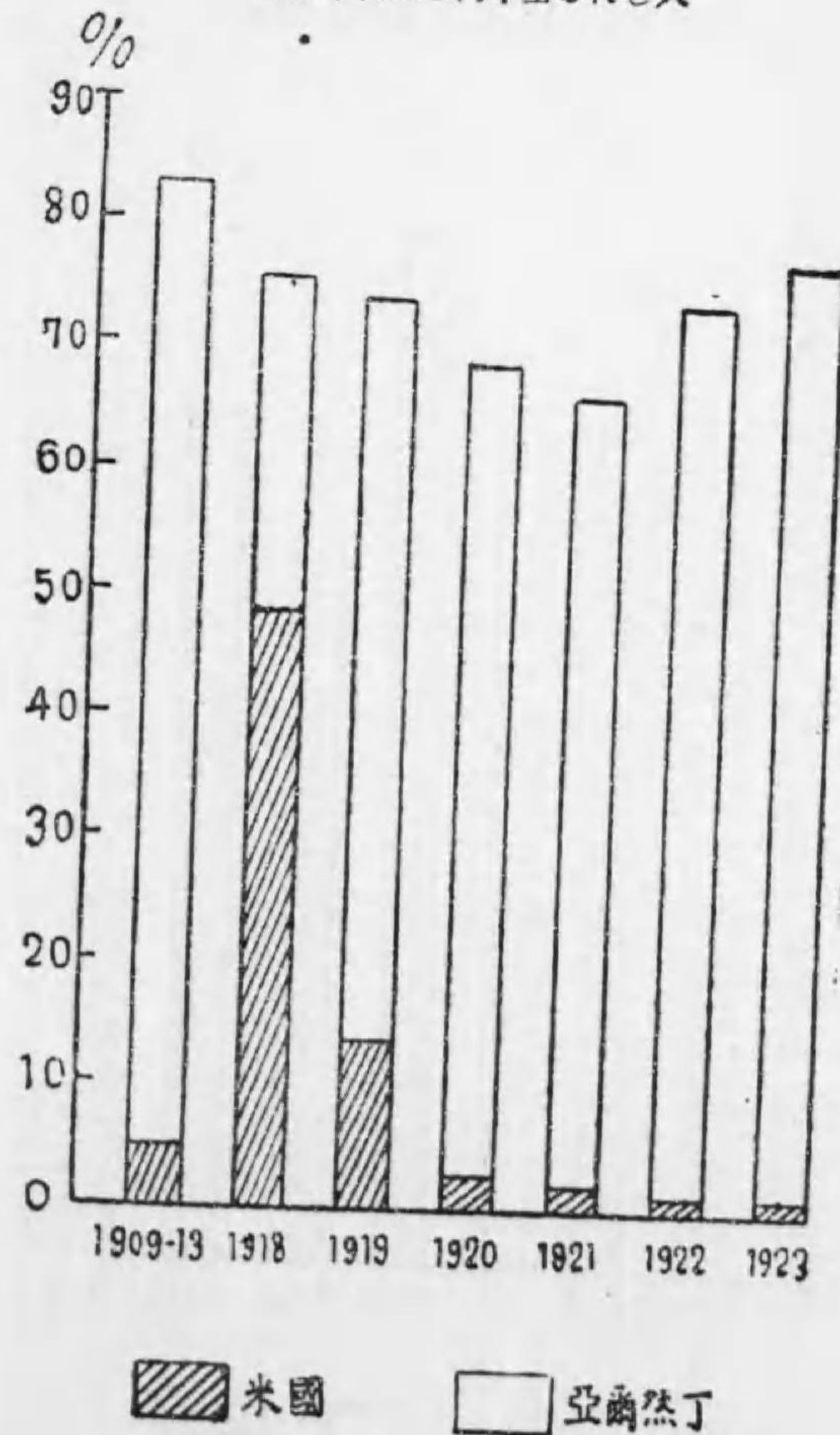
歐洲市場の恢復次第では尙一層の發達を遂げ得べき餘力を存して居る事を認めねばならぬ。

品名	一九〇九年より一九一三年に至る平均	一九一九年	一九二三年
小麦	四〇、〇二三 千キントナル	五九、〇四九 千キントナル	七〇、六七九 千キントナル
玉蜀黍	四八、六九四	六五、七一〇	五七、四四四
燕麥	七、八七四 千頭	四、五〇六 千頭	一一、九〇七 千頭
牛	二五、八六七 千頭	二七、七二一 千頭	三七、〇六五 千頭
羊	四三、二二五	四五、七六七	三〇、六七二
豚	二、九〇一	三、一九九	一、四三七

(牛、羊、豚の第三段目の數字は一九二二年の統計による)

亞爾然丁の主要輸出品は牛肉、羊肉、羊毛、穀類及牛酪であるが、亞爾然丁の供給が戦時の不便なる輸送状態の下に於て如何に急速に歐洲市場に侵入して、米國の輸出品と競争するに至

米及亞爾然丁より英國へ輸
入したる牛肉の比較年次表



肉の供給に就いては、南米諸國は今尚ほ米國の敵ではないけれども肉類總體の見地からすれば、南

米は今日最も重要な供給國の一つであつて、一九二三年十一月發行のステーチスト誌の如きは、現在亞爾然丁及びウルグアイよりの供給が英國輸入肉の四割四分を占めて居る事より推算して、將來米國よりの輸入は久しからずして其跡を斷つに至るであらうとの觀測を下して居る。更に南米の農業に就て注目すべきは、ブラジル其他に於ける棉花の栽培である。尤も今日に於ては、僅に數千俵の輸出を見るに過ぎない状態にあるけれども、それは地味並に氣候が不適當な爲めではなくて、唯資本及び經驗の不足並に交通機關の不完全なる事の結果である。將來此方面に於ける改良が促がされたならば、世界に於ける棉花の供給系統は爲めに一變するかも知れない。其結果米國の棉花が不利の地位に立つてあらう事は想像するに難くない。ブラジルにはサンフランシスコ河の流域に一噓十志乃至十五志で購入し得べき數百萬噓の棉花好適地がある。而かも是等の土地の生産力は一噓平均六十磅であつて、僅に百分の二の租税を負擔するに過ぎぬ。マンチエスター・ガーヂアン・コンマーシアル紙の如きは茲數年間に此栽培地が世

界で最も重要な棉花供給地となるとまで豫言して居る。

更に一九二三年十月十三日のステーチスト誌は、英領ギニアに於ける食料品並に原料品の供給に多大の望を囑した一文を掲げて居る。今の所では尙ほ交通機關が不完全である爲めに、大に其生産力を殺がれて居るけれども、將來鐵道其他交通の便が開ければ、俄然その潜勢力を發揮し、英本國に對する重要な輸出國たるに至るであらうと言ふのである。

尙ほ是等南米諸國以外に歐洲市場に於ける米國の大敵として擧ぐべきものに加奈陀及び濠洲がある。

加奈陀が米國の競争者として現はれるのは、氣候の關係上殆ど小麥及び豚に限られて居る。西部加奈陀に於ける小麥の生産は比較的新しい出來事で、米國が一億四千九百萬ブッシェルを産した一八九八年には尙ほ漸く六千八百萬ブッシェルを産したに過ぎなかつたが、其後の發達は實に目覺しいもので、一九一三年には小麥の輸出額一億五千二百萬ブッシェルを超え、

一九二三年には二億九千三百萬ブッシェルに達して居る。

左表は加奈陀に於ける主要農産物の産額である。

	一九一三年	一九一九年	一九二三年
小麥	千アツシエル 二、三〇〇	千アツシエル 一〇、二〇七	千アツシエル 二、三、二三二
ライ麥	二、三〇〇	一〇、二〇七	二、三、二三二
大麥	四八、三一九	五六、三八九	七六、六九八
燕麥	四〇四、六六九	三九四、三八七	五六三、九九七
亞麻	一七、五三九	五、四七三	七、一四〇
牛	千頭 六、六五六	千頭 一〇、〇八五	千頭 九、二四六
羊	二、一二九	三、四二三	二、七五四
豚	三、四四八	四、〇四〇	四、四〇五

加奈陀に於ては現在の小麥耕作面積二千二百萬噓以外に尙數百萬噓の小麥耕作地を求む

る事は決して困難ではない。されば其生産費の如きも米國に比すれば遙に低位にあり、米國の關稅委員會をして、加奈陀よりの輸入小麥に對し、遂に一ブッシェル四十二仙の關稅を殺定せしむるに至つた程であるが、其結果加奈陀の小麥はドシク英國其他の歐洲市場に振向けられ、亞爾然丁及び濠洲小麥と共に米國小麥を漸次歐洲市場から驅逐するの勢ひを示すに至つたのである。

濠洲は米國に比し、面積も廣く且つ開拓も十分に行渡つて居らぬので、それだけ將來に對する強味を有つて居る。少くとも東洋に於ける小麥市場の發達を希望し、歐洲に於ける小麥市場を維持せんとする米國農民に取つては一大強敵であること言ふを俟たない。一八八〇年に二千三百萬ブッシェルを産した濠洲の小麥は、戦前には九千百萬ブッシェルまで上つたけれども、戦亂が始まつてからは、距離の遠隔と船腹不足の關係で寧ろ停滯の氣味であつた。それでも一九二一年に當時の安値と高い運賃とに拘らず、一億四千六百萬ブッシェルを産したといふ事は

如何にその競争力の大きいかを物語るものである。殊に濠洲に於ては加奈陀、亞爾然丁と等しく小麥の國內消費は産額に比し極めて少額であるが故に、國內消費力の高い米國は、此點に於ても競争上苦しい立場に立たねばならぬのである。米濠兩國から英國に輸入した小麥の數量を比較して見れば、歐洲市場での兩者の消長は略之を推定する事が出来る。(單位ハンドレツドウェート)

濠洲より

米國より

一八九八年より一九〇一年に至る平均

三、〇九一、二〇一

六一、六四三、二三七

一九一〇年より一九一三年に至る平均

一一、九二三、〇七七

二六、六三八、九一九

濠洲も亦加奈陀、亞爾然丁に於けると同様、絶えず小麥の耕作面積を増しつゝある。即ち一九一三年の七千六百萬噓臺から、一九二三年には九千八百萬噓臺となり、更に一九二四年には一億噓臺を突破したと言はれて居る。(國際農業協會報告) それに伴れて輸出額も戦前の五千

ブッシェルから、一九二一年には一億二百萬ブッシェルと躍進的增加を示して居る。其他濠洲所産の穀類、肉類、乾果等は何れも歐洲及び東洋市場に於て米國農産物の競争者として現はれ米國の農業者に取つては絶対に無視する事の出来ない地歩を占めて居る。

此外尙ほ東洋には小麥及び棉花の大産地たる印度がある。但し印棉は米棉より品質が劣つて居るので自らその仕向地を異にし、歐洲よりも寧ろ日本、支那に輸出せらるゝものが多く、比較的品質の改良が行はれないので今日では米棉に對する競争力は夫程大きいとは言ひ得ない。また小麥にしてもその輸出せらるゝのは餘程作のよい年に限られて居る。無論耕作の方法が科學的に進歩すれば、その生産額を尙ほ遙に増加せしめ得るであらうけれども、それが實現される以前には、必ず、社會生活の向上があり、教育の普及がある譯で、それだけ國民の生活程度が高まり消費額を増す勘定であるから、生産の増加が直に輸出能力の増大を意味すると考へるのは間違であるけれども、將來是等の新興國が米國の農産物よりヨリ低廉なる農産物を供給

し得るといふ事は争ひのない所で、それだけ國際貿易の上には有利な立場を占めて居る譯である。南阿の諸國も亦從來家畜、果實、棉花の供給者として知られて居るが、最近南阿聯合國は更に少量ながら（米國商務省の計算によれば一九二三年に六百萬ブッシェルを輸出し、一九二四年には二千萬ブッシェルを輸出するだらうと言はれて居る）大豆の輸出をも見るに至つた。併し大體から言へば、此地方の土地は未だ生産力を十分に利用し得べき状態に置かれて居ないので、隨て目下計畫中のボンゴラ地方に於ける鐵道建設が完成しただけでも生産増加に寄與する所幾許なるやを知らないといふ状態にある。

之を要するに、米國農民は是等の諸國を對手として大體次に列擧するが如き立場に置かれて居る。

一、歐洲諸國の農業生産力は個人の努力及び政府の政策を通して著しく恢復しつゝある。今日では尙ほ戦前の状態まで立戻つては居らぬけれども、歐洲市場の恢復に伴れて、農産物は戦

前以上の生産を見るに至るべき傾向がある。

二、工業の生産力は遙に戦前の状態以下にあるので、歐洲諸國の購買力は甚しく減殺されて居る。

三、歐洲諸國は農産物を最も安く供給し且つ比較的工業の發達して居らぬ國を貿易の相手として求めて居る。

四、現在の統計及び其數字の指示する傾向から判断すれば、歐洲市場の農産物は、米國よりも亞爾然丁、ウルグアイ、加奈陀、濠洲、南阿等の諸國が有利に供給し得る地位に立つて居る。

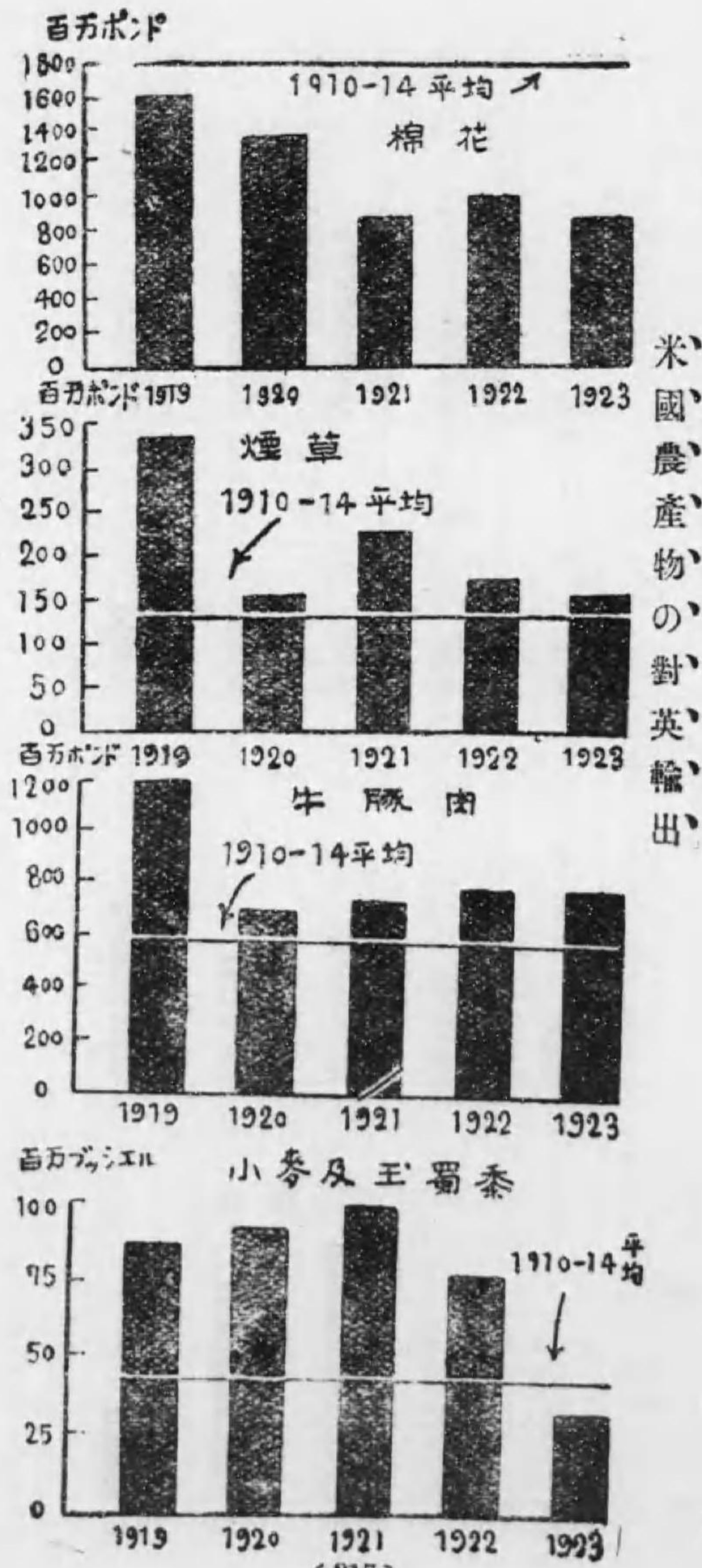
五、米國の生産者は特に爲替相場及び内地運賃の關係に於ける不利に苦んで居る。加奈陀の生産物は長き陸上運送を餘儀なくされる點に於て米國と同様の地位にあるけれども、加奈陀の陸上運賃は米國のそれに比し遙に低廉である。

六、歐洲諸國の工業が復活し、その購買力を恢復すれば、彼等は再び小麥を輸入に待つ分量が

多くなり、其結果は米國よりも加奈陀、亞爾然丁、濠洲等がヨリ多く利益を占むる事となる。またそれと同時に歐洲に於ける豚の飼育増加も米國農民の神經を尖らしむる種子である。七、斯くして米國農民の頼りとする所は、比較的擴張力の少ない棉花と煙草に存するといふ事になる。

第六節 農産物貿易の前途

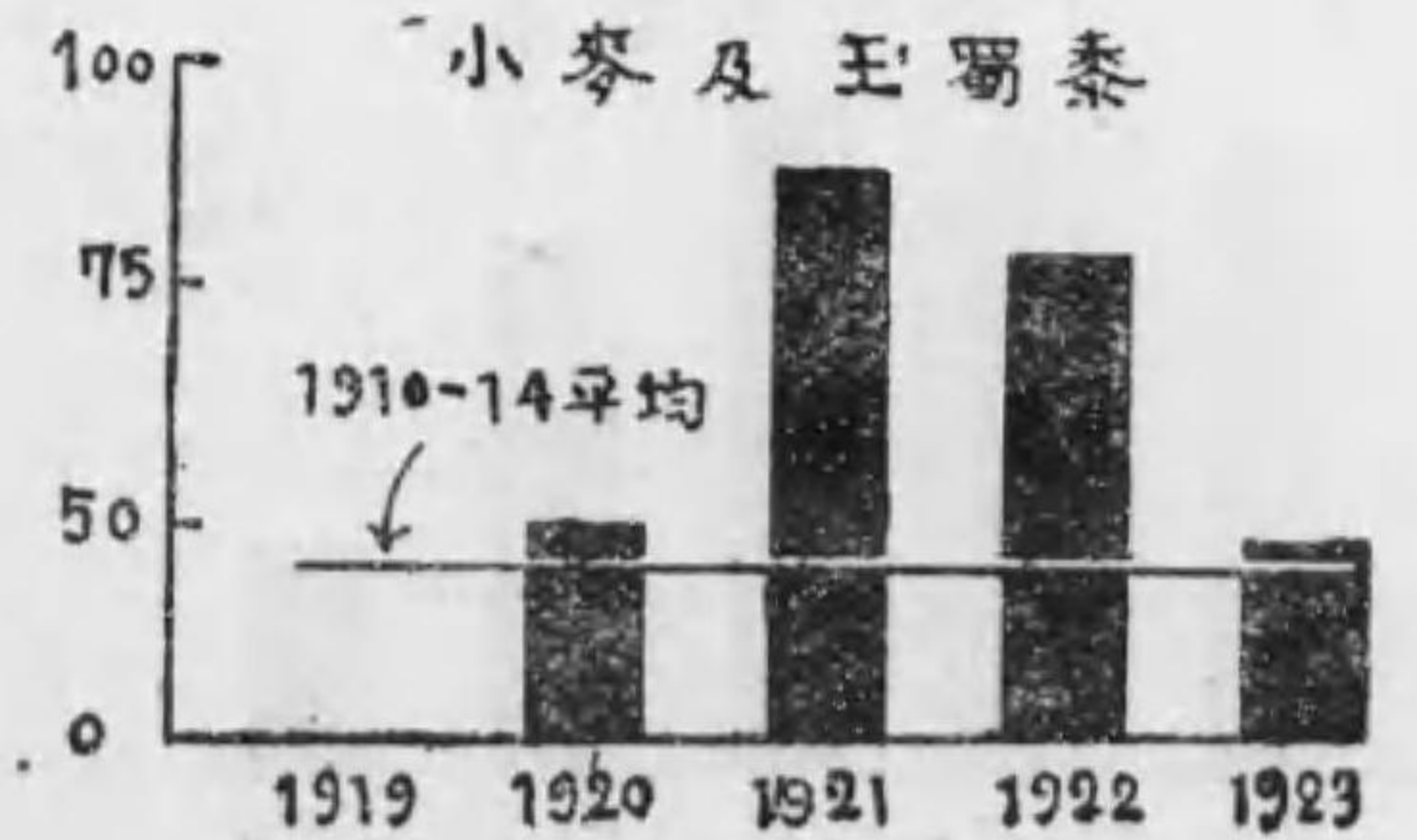
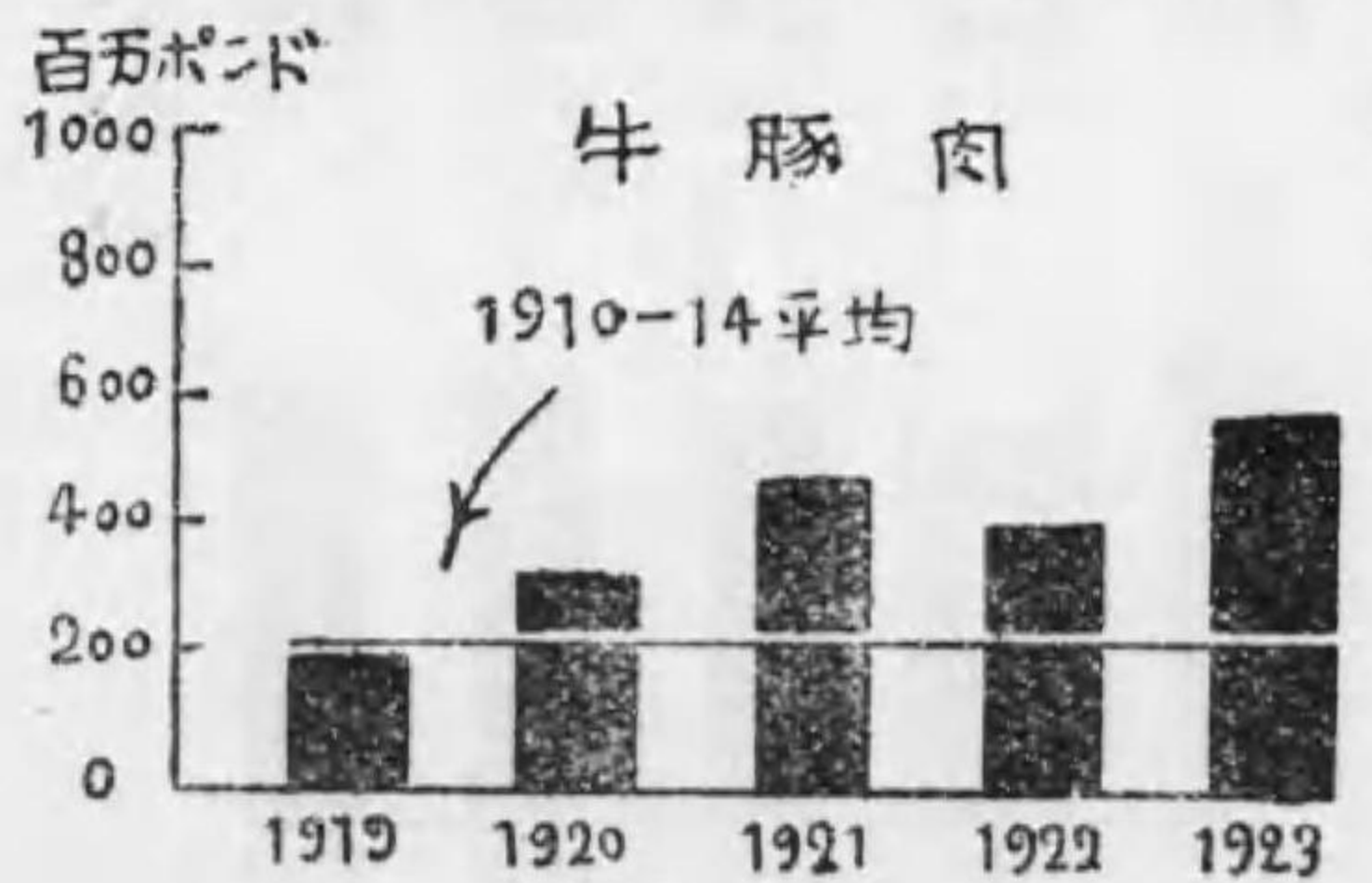
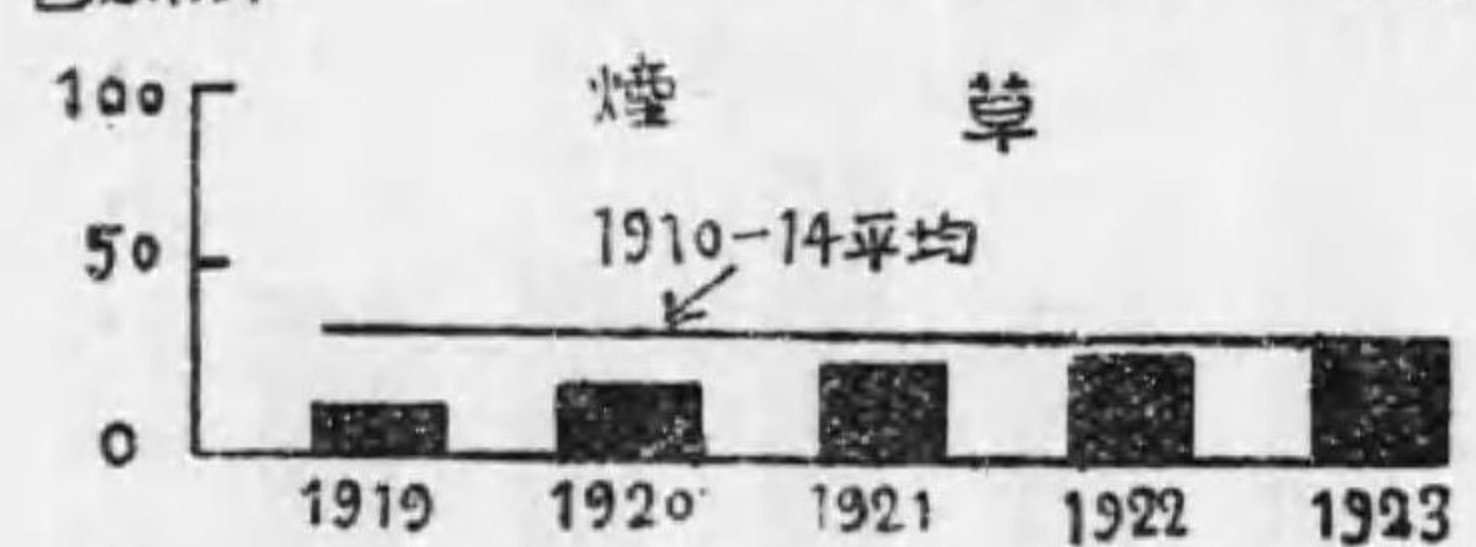
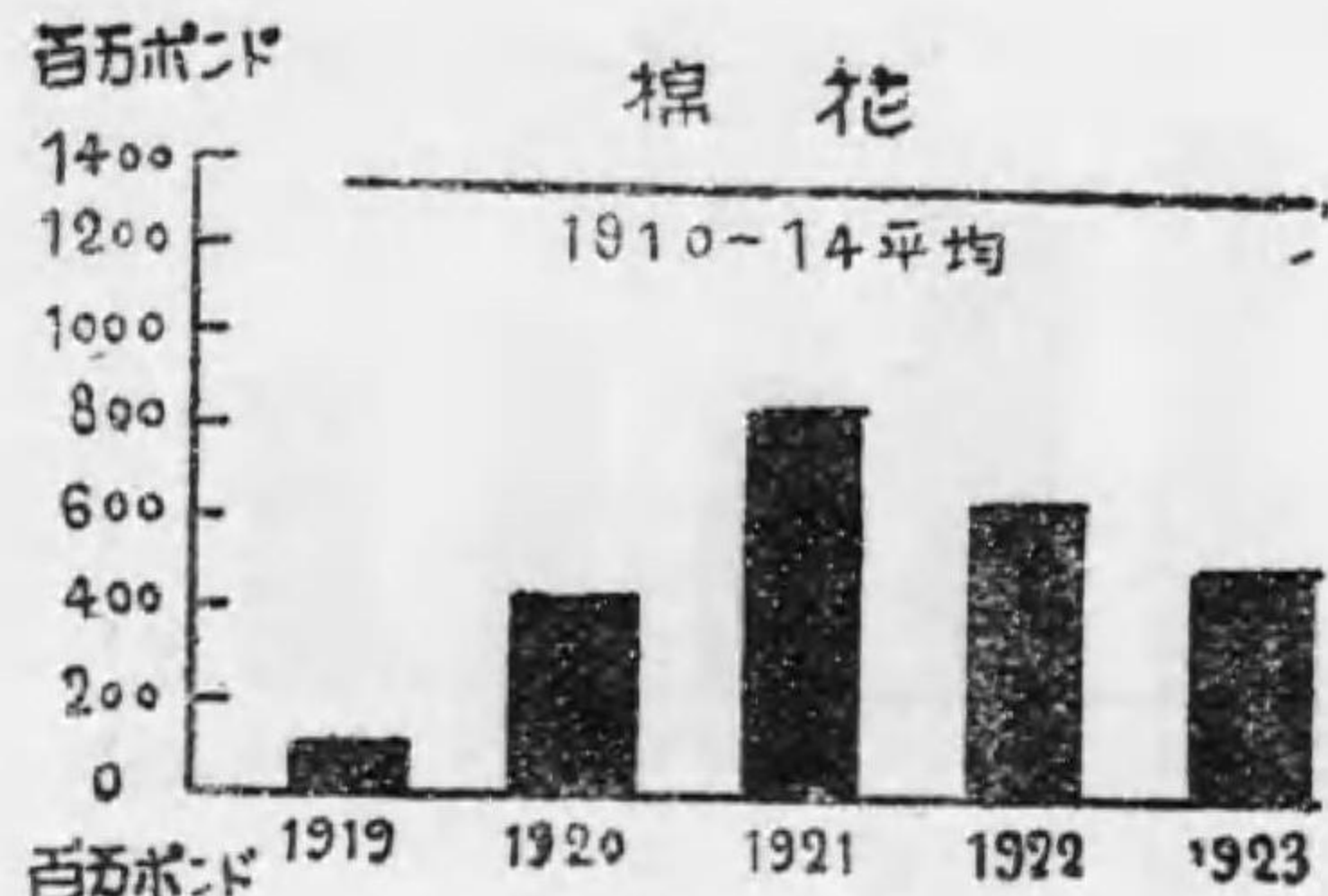
是等の事情を綜合して見れば、米國の農業界は今や戦時戦後の全盛時代を経過して一九一四年以前に於ける状態に復歸せんとする徑路を辿つて居る事が分かる。即ち歐洲に對する食料品の輸出不振、それを中心として米國の農産物經濟は茲に一回轉を爲さんとして居るのである。その重なる傾向はリヴァプールや漢堡に對する小麥の輸出が南洋、東洋方面に對する小麥粉の輸出に變りつゝある事や、穀類の代りに豚肉の輸出が擡頭し出した事等によつても窺ふ事が



出来るが、最近に至つては歐洲市場に於て喪つた所を東洋市場に恢復せんとする努力漸く顯著なるものがあり、乾果、罐詰菜果、粉乳、煉乳等の輸出に加へて、更に日本、支那、印度等に對する米の輸出をも奨励するに至つて居る。一九二二年に於ける米の輸出額は三億五千九百萬封度、内、日本へ九千九百萬封度、一九二三年には輸出總額二億九千三百萬封度、内日本へ六千四百四十萬封度である。大體から言へば、一九二三年に於ける米國の農産物輸出は尙ほ戦前に於ける五年間の平均よりも稍上位にあるけれども、歐洲諸國の經濟生活の變化から來た輸出農産物價格の下落は容易に恢復の模様なく、延いて生産の手控を餘儀なくせしめつゝあるが故に一九二三年に於ける輸出上の數字を今後尙ほ持續し得るや否やは大なる疑問である。

重要農産物の現勢を圖示すれば左の如くである。

米國農産物の對獨輸出



棉花の對歐輸出は、戦亂以來、米國に於ける不作と海外購買力の減退との爲めに著しくその勢を殺がれたが、此事實は偶々棉花相場暴騰を促したので、南米、印度、南阿、地中海地方の一部、濠洲等に於ける棉作を刺戟し、米國の内地消費の増加と相待つて、益々米棉の輸出は困難の度を加へつゝある。無論それが爲めに米國農産物の將來を悲觀し去るのは早計であるけれども、米國が今日非常に苦しい立場にあるといふ事は否定すべからざる事實であつて米國農業界の將來は懸つて米國が現に採りつゝある各種の新政策が如何なる程度まで成功し威力を發揮するかといふ點にあるのである。

米國の棉花産額

一九一〇年より一九一四年に至る平均
一九一五年より一九一九年に至る平均

一四、二五九、二三一 俵
一一、四八一、〇八四

一九二〇年	一三、四三九、六〇三
一九二一年	七、九五三、六四一
一九二二年	九、七六二、〇六九
一九二三年	一〇、一三九、六七一

此機會に十九世紀の後半に於て何故に米國の農産物が盛に歐洲諸國の需要する所となつたかといふ根本問題に立戻つて考へて見る必要がある。此問題を最も明確に解決するものは英國に於ける事例である。英國に於ける當時の産業工業化と食物の不足とは英國を驅つて歐洲大陸農産物の大得意たらしめたのであるが、大陸に於ける工業の勃興と人口の増加とは遂に英國をして永く彼等にのみ頼るを得せしめなくなつた。即ち一八六五年より一九一五年に至る半世紀間に、歐洲諸國の人口は露國の九一、五%増を首めとし、和蘭の八四、三%増、白耳義の六三、九%増、英國の五八、六%増、獨逸の四四、二%増、バルカン諸國の四〇%増と目覺い膨脹を

來し、且つ都會集中の傾向顯著なるものがあつたので、歐洲に於ける食料品生産額は絶對的に増加しつゝあつたに拘らず、次第に輸入額を増さざるを得なくなつたのである。のみならず他面には生活程度の改善と共に、食料消費は量に於ても質に於ても著しく向上したのであつた。斯くして歐洲諸國の農産物は國內消費のために手一杯となり、紡績工業の發達に伴ふ棉花の需要と共に、茲に米國の農産物活躍時代が惠まれたのである。今米國の代表的輸出農産物たる小麥に就て、當時の輸出状態を検すれば左の如くである。

自	至	輸出額	總産額に對する百分率
自一八六七年	至一八七二年	三五、五〇〇、〇〇〇	一五、五三
自一八七三年	至一八七八年	七三、四〇〇、〇〇〇	二四、五九
自一八七九年	至一八八三年	一五七、六〇〇、〇〇〇	三四、九一

自一八八四年	一二二、四〇〇、〇〇〇	二七、七四
至一八八八年		
自一八八九年	一四四、四〇〇、〇〇〇	二八、八六
至一八九三年		
自一八九四年	一五九、六〇〇、〇〇〇	三四、九六
至一八九八年		

然るに二十世紀に入つてからは形勢一變、戦亂直前の二年間に稍盛返したとは言へ、一時は七、四〇%（一九〇四年）まで落込んだのであつた。

主要農産物の總生産額に對する輸出比率

	棉花	小麦	玉蜀黍	烟草
一九〇〇年	六六、三〇	三五、八四	七、二四	三八、七八
一九〇五年	六四、五六	一三、四〇	四、三七	四九、三二
一九一〇年	六六、八五	一〇、九一	二、二七	三二、二〇
一九一三年	六二、五六	一九、〇七	〇、四四	四七、一六

無論歐洲は二十世紀に入つてからも尙ほ米國農産物の顧客であつたけれども、その輸入額は以前のやうに多額には上らなかつた。輸入國の大頭目たる英國の例で見ると、一九〇〇年から一九一四年までの間に、米國よりの農産物輸入は約三割方の減少を示して居る。

第七節 國內消費の膨脹

米國の輸出農産物に前述の如き變化が起つた理由に就ては(一)米國が輸出の状態に置き得べき過剰生産物の分量及び(二)米國に於ける生産費と他の供給國に於ける生産費との比較を考へて見る必要がある。

先づ第一には此時代に米國の國內消費が異常に膨脹した事を挙げねばならぬ。即ち人口増加と工業發達の影響を受けて、生産物の増加以上に消費が高まつたのである。一八九〇年に六千三百萬であつた米國の人口は十年後の一九〇〇年には七千六百萬となり、更に次の十年間には

千六百萬を増し、一九一四年即ち戦亂勃發の當時には九千八百萬人を算して居つた。之を一八九〇年の人口に比すれば五割六分増、一九〇〇年の人口に比するも尙は二割九分の増加である。一九〇〇年より一九一〇年に至る十年間に於て重要穀類は僅に一%の増産を見たに過ぎないのに反し、人口は此期間に於て二一%の躍進を示して居る。食料品の輸出能力が減退したのは當然の結果ではあるまいか。更に一九一四年は稀に見る豊作だと言はれたが、それでもその産額は一九一〇年に比し一〇、七%を増したに過ぎなかつた。此期間に於て人口が二九%の大膨脹を來したのに比すれば物の數ではなかつた筈である。而かも農業に従事する労働者は、一九〇〇年から一九一〇年の間に、千二十四萬八千人から千二百四十一萬七千人に増加したに過ぎないのに反し、商工業に従事する労働者は同期間に二千九百七萬三千人から三千八百十六萬七千人に激増して居る。斯くして人口の都市集中が肉類、穀類、飲料等の國以消費を盛ならしめたので、農産物の價格は他の物價に比し一段上位を占むるに至つたのである。米國労働統計

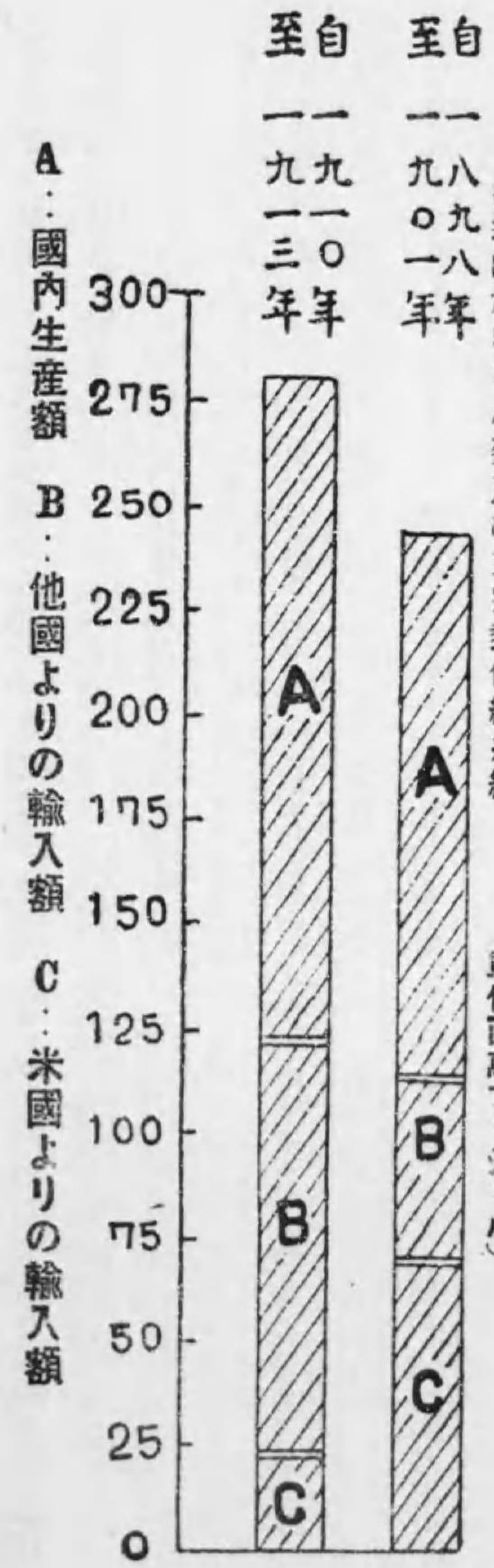
局の調査によると、農産物と他の商品との指數比較は左の如き變化を示して居る。(一九〇〇年の指數を一〇〇とす)

	農産物	其他の商品
一八九六年	七八、三	八二、五
一九〇〇年	一〇〇、〇	一〇〇、〇
一九〇五年	一一、六	一〇六、三
一九一〇年	一四九、三	一二三、八
一九一四年	一四九、三	一二五、〇

此の如く米國の一般物價が輸入國の物價よりも急速に騰貴し、而かも農産物價格が他の物價よりも急激なる昂騰を示しつゝあつたとすれば、米國の農産物が輸入國の注目を惹かなくなるのは當然の話である。そして其結果は輸入國に於ける消費の節減となり、生産増加となり或は

他の輸出國よりの輸入を刺戟する事となるのである。獨逸の如きは其好適例である。獨逸は確かに國內生産の發展と他の産地からの輸入増により、米國からする小麦及び玉蜀黍の輸入を減少する傾向を有つて居る。

獨逸に於ける小麦及び玉蜀黍供給系統 (單位百萬ブッシェル)



斯やうな次第で、一九〇〇年から一九一三年の間に於て、其地歩を保ち得た所の米國輸出農産物は棉花及び煙草あるのみである。ラード及びハムはその減退額比較的僅少に過ぎぬけれども、是等は競争者次第では更に悪化するべき危険を包蔵して居る。棉花に就ては埃及及び印度等の輸出國があるけれども、前者は其數量の微々たるが爲め、後者は品質上の差異あることの爲めに、米棉は殆ど競争らしい競争を受けて居らず、又煙草は蘭領印度、土耳其、アルゼリア、亞爾然丁等の重要産國があるけれども米國品は未だ歐洲市場に於てそれ等の壓迫を感じて居らない。英國の例を取つて見ても、米國煙草は依然として消費額の九割に近い額を占めて居る。

第十章 米國産業の特色

米國は世界中に於て最も豊富なる天然資源を恵まれた國の一つである。今その産物の重なるもの數種を擧げて見ると、小麦は世界産額の四分の一、玉蜀黍は四分の三、棉花は五分の三を占め、鐵の世界産額の二分の一、銅の五分の三、石油の三分の二の外尙ほ米國に亞ぐ主産地たる英獨佛三國の生産額合計に匹敵する石炭を産し、羊毛も亦世界の主産地たる濠洲の約半額を産出するといふ有様である。米國に生産しないものはと言へば、錫、ニッケル、砂糖、護謨、生絲、茶の類に過ぎない。

戰時中に於ける米國並に世界の重要産物生産額 (千位以下略)

石炭	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
米國	五六九、九六〇	五一三、五二五	五三一、六一九	五九七、四七四	五五一、七九〇
世界	一、四七五、二二六	一、三三二、九七二	一、三一三、九〇二	一、三六五、〇〇〇	一、二五九、〇〇〇

石油	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
米國	二四八、四四六	二六五、七六二	二八一、一〇四	三〇〇、七六七	三三五、三一五
世界	三八三、七五三	三九八、六九八	四二七、七四〇	四六〇、九〇一	五〇〇、二二九
鐵	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
米國	一七一、九八〇	四一、四三九	五五、五二六	七五、一六七	七五、二八八
世界	一七四、〇九二	四一、四三九	五五、五二六	七五、一六七	七五、二八八
銅	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
米國	二、二二四、四八四	二、一五〇、一三七	二、三八八、〇〇九	三、九二九、八五〇	一、八八六、〇〇〇
世界	二、一九八、七三三	二、〇六八、九七三	二、三四六、三〇〇	三、一〇六、九九五	三、一四一、九六〇

〔單位〕 石炭(米噸) 石油(バレル) 鐵(米噸) 銅(封度)

米國は今や此恵まれたる天然資源を開拓して、昔日の純然たる農業國から農工業國に轉化したつゝある。米國が今日世界産額の五分の三に當る鐵、三分の一に當る棉花、四分の一に當る羊毛、五分の三に當る銅を消費して居るといふ事實は、米國に於て製鐵業、紡績業、毛織業等の近代的工業が如何に大規模に行はれて居るかを語るものではないか。更に又米國に於ける消費力の強大なことは、自ら産せざる生絲及び護謨に對し、世界産額の三分の二以上を使用するといふ事實によつて之を證明する事が出来る。

パーネス氏の計算に據ると、米國は今日全世界人口の六分に相當する人口を以て、毎年石炭、鐵、銅、石油、材木等所謂基礎原料の世界生産額の半額以上を産出する外、世界新聞印刷用紙の二分の一、自動車の九割を生産し、鐵道哩數に於て世界總哩數の二分の一、電信電話に於て四分の三を占め、創業以來百四十年にして國富三千億弗を突破するに至つた。此額は全世界が四千年間に作り出した富の總計の三倍に當るとの事である。以て米國民の企業的精神の如何に旺盛であるかを知るべきである。

紐育大學のワイルドマン教授は、米國にトラスト運動の始めて起つたのは一八九八年で、其後三年間に資本金額三十五億七千八百八十五萬弗に相當する百四十九の大聯合が實現されたと言つて居る。當時此の如き大組織が果して順當に運轉され得る物であるかどうかといふ事が問題となつた程であるが、其局に當つた人々が何れも之を處理する事殆ど從來の小事業を經營すると異なる才能を示したので、米國に於ける大資本主義は其後恰も山腹に雪玉を轉がすが

如き勢ひを以て發展を遂げ、世界の經濟史上に最も花々しい一頁を彩り、富豪續出の端を開いたのである。

併し米國の工業を論ずるに當つて、第一に注意せねばならぬ事は、歐洲諸國の工業と異り、米國の工業はその生産品を輸出せんが爲めではなく、國內の需要を充さんが爲めに起つたといふ事である。現在に於ては輸出に振向け得る或る程度の餘力を生ずるに至つて居るけれども、尙ほその本來の性質は之を失はずに居る。二三の商品に就いて其輸出状態を英國と比較して見れば此關係は一目瞭然である。

製品總量に對する輸出額比較

	鐵製品	綿製品	毛織物
英國	六八%	八〇%	四〇%
米國	六〇%	一〇%	〇%

即ち米國の工業は對外的よりも寧ろ對內的に發達して來た。米國が廣大にして豊饒なる土地を有して居たことが無論その原因であるけれども、之を市場化したに就ては鐵道の發達が與つて力がある。歐洲の鐵道が最初から人口稠密して交通量の十分な所に敷設されたのに對し、米國の鐵道は新に土地を開拓し、貨物の大量運搬をする目的の下に發達したものである。今日では鐵道の經營法などに就て兎角の文句もあるが、此發達した鐵道網と、全世界車輛數の八割七分を占むる自動車とがなかつたとしたならば、米國の經濟界は殆ど手も足も出なかつたに相違ない。

米國産業界の集中的傾向は前述の如く既に十九世紀の末期に於て其徴候を現はし、當時組織せられたものに砂糖トラスト、鋼鐵トラスト等の類があり、合同の大利益が證明せらるゝと同時に、トラスト類似の組織は投機的に助長せられ、二十世紀に入つてからは運輸界並に工業界に於ける此合同企業の勢力が漸く顯著なるものあるに至つた。此大資本主義の企業組織が米

國の急速なる國富増進に與つて力あつた事は否定すべからざる事實であるけれども、他面に於ては此生産力の獨占が國民經濟上に及ぼした害毒も決して小さいものではなかつた。ルーズヴェルト大統領の有名なるトラスト征伐の始まつた所以で、爾來政策上の寛嚴はあつたけれども、獨占業に對する或程度の干渉は依然として繼續したのであつた。然るに戦後此政策に多少變調を帯びて來たことは注目に値する。是れ戦後に於ける勞働階級の壓倒的勝利が漸く勞働專制の色彩を明かにして來たので、米國に於ては再び資本家を擁護する事によつて其生産力を高むる傾向を誘導するに至つたからである。此反動的政策が如何なる結果を持來すかは之を後日に徴する外はないが、農産業並に商業方面に於ても漸次企業合同が勢力を得つゝある事は、現下の米國經濟界を論ずるに當つて看過してはならぬ點である。

米國工業中トラスト組織を最も有効に利用し、驚くべき急速の發達を遂げたものに、電氣事業及び製鐵業がある。電氣事業に於ては其發達の尙ほ幼稚だつた一八九二年に既に會社合同の

機運を作り、爾來其業務を擴張するに際しても各會社は營業上の協定によつて相互間の競争を避ける方針を採つて來た。電力の利用状態は産業分布の状態により地方的差異はあるが、工業を始め燈火、暖爐其他厨房用に至るまで、米國人の電力利用は極めて一般的であつて、彼等が電力の爲めに支拂ふ金額は家庭經濟に於ても少からざる部分を占めて居る。一九〇〇年には百八十萬馬力に過ぎなかつた電力の供給が、十年後には九百萬馬力を超え、更に其後の十年間には二十萬馬力を突破するに至つたといふ事實は、反面に於て米國工業界の發達を立證するもので、殊に南部諸州の工業化の如きは此電力の供給に負ふ所實に大なりと言はざるを得ぬのである。一九〇五年には人口五人に付一箇の割合であつた電燈數が一九二二年の調査では一人當り三十二燈六五と十七年間に百六十三倍餘の増加を示して居る。實に驚くべき發達ではないか。米國の天然資源開發は、南北戰爭后漸くその緒に就いたに過ぎぬのであるが、その後五十年間に於ける進歩は實に凄じいものであつた。そしてその中最も急速なる發達を遂げて資本の集

中に成功したものは製鐵業であつた。百年前の一八二〇年代には僅々三萬噸を産するに過ぎなかつた米國の製鐵は、二十世紀に入るやその産出額一千萬噸を突破して世界製鐵國の第一位に居り、最近には四千三百萬噸を産して世界總産額の六十三%を供給しつゝある。

米國鉄鐵産額

一九二一年	一六、五四三、六八六噸
一九二二年	二六、八七九、七八三
一九二三年	四〇、〇五九、二五四

一九〇一年には製鐵業の聯合が十億弗の資本を以て創められた。十億弗と言へば、當時の國債全額の半ばに當る巨額である。當時の通貨流通額が二十一億千三百萬弗であつた事に想到すれば、思半ばに過ぐるものがあらう。

石油界にも一の怪物がある。スタンダード石油會社は其實三十八會社の寄合世帯で、資本金

總額は二十三億弗であるが、今日は其六分五厘即ち約一億五千萬弗の配當をして居る。

スタンダード會社をして今日あらしめ、一大石油王國を建設したのは彼の有名なロックフェラーであるが、彼の石油界に於ける專制振りに對して現はれた鐵槌が一九〇〇年ルーズヴェルト大統領のトラスト解散命令だったのである。併し彼は大統領のこの解散命令に對して係争を續けつゝ、一九一〇年には遂に米國原油の八六%を其支配下に置いて仕舞つた。其後民主黨のウィルソン時代となつてからは、寧ろその積極的後援を受けたので益々膨脹し、今日では全世界の石油の七五%に對し支配權を有するに至つて居る。

米國に於ける石油業が如何に長足の發達を遂げたかは次の産額表を一瞥すれば極めて明瞭である。

一九〇〇年

二、六七二、〇六二、二一八 ガロン

一九一四年

一一、一六二、〇六二、四七〇

一九二二年

二二、一五〇、二七四、〇〇〇

更に商業の側に於てもこの特色は發見される。その一例として米國國際會社を擧げる事が出来る。同社は米國內に於ける各方面の有力なる大會社と聯絡して商品の大規模生産を遂げ之を海外に販賣すると同時に、又海外市場に對する大々的投資を目的として創立（一九一五年）されたもので、資本金一億弗全額拂込である。此會社が最も力瘤を入れたのは、造船及び海運であるが、南米並に東洋方面と密接なる金融關係を設定したのも亦この會社の力であつた。

更に米國工業には内容的に一大特色がある。それは比較的富裕なる大多數者の消費を目的として大量的に生産せらるゝ努力節約機が其中心をなして居る事である。蓋し米國に於ては近代的大工場組織の發達と、農業、鑛業、林業等が並行して發達した爲め、到る處努力の不足を告げ、低廉なる努力を得る事が困難であつたので、自然努力節約を目的とする機械並に工具の發

明發達を促したからである。既に機械を使用する以上之に要する巨額の資本を銷却する爲めに凡ての産業を通じ大規模の生産が必要になつて来る。随つて米國の生産品は極貧、極富の少數者の消費を度外視して、比較的富裕なる多數者の階級の需給を充すべき品物の大量生産に獨特の發達を遂ぐるに至つたのである。例へば自動車、絹絲工業品、靴、家庭用電氣器具、蓄音器、裁縫機械、計算器、登録金庫、タイプライター、ラヂオ接受機の如き是れである。

第十一章 米國に於ける信用の膨脹

第一節 信用の膨脹と物價

ジョージ・ベイシユ氏が一九一四年六月ロンドン・ステーチスト誌上に發表した議論は、同月二十七日の米誌リテラリー・ダイジュストに引用されたが、それによると氏は過去一世紀間に於ける各國國富の急激なる増進は主として簡人並に國民相互間に於ける信用觀念の發達に基くものである事を指摘し、英國の富は一八一四年より一九一三年に到る一世紀間に百二十五億弗から八百五十億弗に、而して米國の富は同期間に於て十七億五千萬弗から千五百億弗に膨脹したと報告して居る。

併しそれから一週間と經たぬ間に人類史上に特筆すべき大戰亂が起つて國際的信用系統は滅

茶々々にされて仕舞つた。リーヴ氏の如きは信用制度の潰滅は戦争それ自身よりも更に惨憺たるものであつたと評して居る。歐洲大陸に於ては直接戦禍を蒙らなかつた國及び地方と雖も、一九一九年から一九二〇年にかけて、此關係からして失業、飢饉、生活難に泣かぬものとはなかつたのである。

米國の信用制度が南北戦争當時に於ける恐慌の試鍊を経て現代化したのは一八九八年に始まつた米西戦争以來の事である。少くも此時代を劃して米國の金融界は一步々々その健實味を加へて來たのである。今その後には於ける金融事情の變化を摘録すれば

(一) 政府によつて準備されたるクレヂットの頭割りは南北戦争後頓に激減し、殆ど十年前の状態に逆戻りしたまゝ、其後久しく一人當り十弗見當を指示して居つた。

(二) 銀行取引高も一八九五年までは一人當り計算に於て明かに減退して居つたが、其後に至つて間もなく二倍以上の額に達した。物價問題、賃金問題の喧しくなつたのも一八九五年以後

の事である。

(三) 銀行数は殆ど金融トラストの影響を受けず、その一人當り数は、二十年間に殆ど倍加して居る。

(四) 預金額は最も目覺しい發達を示したものの一つである。普通銀行及び貯蓄銀行に於ける一人當りの預金は過去五十年間に六倍、各種銀行を通じて四十年間に四倍の額に上つて居る。

(五) 銀行の資金も亦激増を示し、普通銀行、貯蓄銀行のみでも十二年間に其一人當りは倍額となつて居る。若し金融會社、信託會社等の分をも加算したとすれば此比率は更に遙に高まつて來る。

(六) 更に注目すべき現象の二に銀行剩餘金並に未配當利益の激増がある。剩餘積立金は五十年間に一人當り七倍となり、殆ど預金と同様の傾向を示して居る。

(七) 信用取引と最も密接の關係を有する貸出及び割引高は通貨の分量に比して五十年間に二倍

となつた

併し米國金融界の發達は歐洲戰爭前までは寧ろ漸進的であつたと言ふ方が當つて居る。之を歐洲戰爭以來の躍進的傾向と比較すると此間の關係は一見明瞭である。開戦以來米國の預金額は次に示すが如き素晴らしい發達を遂げて居る。次表は米國十六銀行に於ける戦前の預金額を一九二三年のそれと比較したものである。

	一九一四年	一九二三年
一 紐育ナショナル・シティ銀行	二六〇、七〇〇、〇〇〇 弗	七五五、七〇〇、〇〇〇 弗
二 紐育ギヤランテイ信託會社	二二一、一〇〇、〇〇〇	四九一、九〇〇、〇〇〇
三 市俄古大陸商業ナショナル銀行	一五五、七〇〇、〇〇〇	三七九、八〇〇、〇〇〇
四 紐育バンク・オブ・信託會社	一四〇、四〇〇、〇〇〇	三一二、一〇〇、〇〇〇
五 紐育ナショナル商業銀行	一三四、一〇〇、〇〇〇	四二六、六〇〇、〇〇〇

六 紐育チェイス・ナショナル銀行	一二六、二〇〇、〇〇〇	四六六、三〇〇、〇〇〇
七 紐育農民金融信託會社	一一五、三〇〇、〇〇〇	—
八 紐育第一ナショナル銀行	一〇八、八〇〇、〇〇〇	三二五、二〇〇、〇〇〇
九 市俄古第一ナショナル銀行	一〇八、一〇〇、〇〇〇	—
一〇 紐育中央ユニオン信託會社	一〇三、四〇〇、〇〇〇	—

第七位にあつた紐育農民金融信託、及び第九位の市俄古第一ナショナル、第十位の紐育中央ユニオン信託の三行は落伍し、今日ではその代りに次の三行が幕内に入つて第八位以下を占めて居る。

八 紐育エクイタブル信託會社	二七〇、五〇〇、〇〇〇 弗
九 紐育アーヴィン銀行	二六二、九〇〇、〇〇〇
一〇 紐育メタル・ナショナル銀行	二五二、二〇〇、〇〇〇

當然下落すべく期待された戦後の物價が何故に低下しなかつたかに就き、フィッシャー教授はその第一原因として通貨の膨脹を擧げて居る。即ち十六世紀に於ける歐洲の物價革命も要するに新世界に於ける金銀坑發見の影響に外ならぬ。當時人々は今日の或論者と同様之を目して黄金洪水の一时的現象としたけれども、事實は決して一时的ではなかつた。之によつて新しい物價の水準が生れたのである。一八九六年以後にも之と同じ現象が繰返されたが、其原因は矢張り南阿、希臘及びアラスカに於ける豊富なる金坑の發見にあつた事を否む譯に行かぬといふのである。教授は更にその第二の原因として信用の膨脹に注意を拂つて居る。曰く吾人の有する金融組織は正に顛倒したるピラミッドである。其基礎をなす所のものは一定額の金貨であつて其上に手形だの銀行券だのといふ膨大な信用が築かれるからである。而かも信用範圍の膨脹は金貨の増加よりも一層速かであるのを常例とする。然るに之を戦後の米國に就て見るに、米國は一九一四年以來十億弗以上の金貨を輸入したが、それ等は大部分大藏省及び發券銀行の

準備金に繰込まれた爲め市場には餘り出廻らなかつた。即ち聯邦準備銀行の準備金は

一九一四年六月三十日現在

五九二、〇〇〇、〇〇〇 弗

一九一八年六月三十日現在

一、七八六、〇〇〇、〇〇〇

と三倍餘の増加を示して居るのに對し、此期間に於ける兌換券の膨脹は六十一億弗から百十七億弗と約二倍になつた丈で、正貨の信用に對する比例は九・六%から一五・三%と増進して、信用の基礎は寧ろ鞏固になつた譯であるのに、それが却て物價の上に禍ひした事は注目し得る。其理由は、現行法の要求する所に據れば、一九一八年に於ける百十七億弗の信用を支持せんが爲めには十億七千萬弗の準備があれば可いので、當時の準備金十七億八千六百萬弗は約七億弗の餘剰を示して居つたからである。七億弗と言へば、當時の準備額の約七割に相當し、極く内輪に見積つても將來尙ほ五割内外の信用膨脹力が潜在して居る事を暗示して居つた爲めである。

然らば物價は是れからどう變化するか。其傾向を論ずるには二つの要件がある。第一には現在の物價は現在の通貨を基礎として觀察され、現在の通貨の分量は現在の新しい物價の標準によつて論定されねばならぬといふ事である。即ち戦後の通貨を以て戦前の物價を論じたり、戦前の物價を以て戦後の通貨を推斷したりしても結局それは無意味である。第二には近き將來に於て米國に對する金の大流入は想像出来ないといふ事である。歐洲の諸國は無論米國に對する戦時中の債務を支拂はねばならぬし、復活が完成するまでにはまだ相當米國品を輸入せねばならぬ立場にある。併し是等の債務の一部は信用の方法によつて支拂の延期が豫定されて居り、又現實に債務が支拂はれるとしても、それは商品の形に於て行はれるので、金の移動とは殆ど没交渉である。斯く論じて來ると、米國の物價は安い歐洲品の大輸入が行はれるまでは、急激に下降する機會はなかりさうに思はれる。尤も品物によつては生産過剰の爲め、賣値を崩すものもあるに相違ないが、大體の傾向としては當分大した變化はないものと見るのが妥當ではあるまいか。

るまいか。

一時世界金融の中心が倫敦から紐育に移るのではないかといふ事が戦争以來盛に論ぜられた事はまだ世人の記憶に新たなる所であらう。昔日の弗は今日の弗でない、英國の磅と雖も米國の弗の前には頭が上がりぬといふ意味からして此議論にも確に一理はある。併し弗が如何に威張つても、自然の地理的關係は之を奈何ともする事が出来ない。金融機關の組織に於ても米國の制度には非常な不便がある。原則として倫敦市場と紐育市場との間に金利の差異を見るのは其結果に外ならぬ。抑も兩國の地理的條件には、金融集中の上に非常な相違がある。即ち英國内ならば郵便は如何なる地點よりするも遅くも一晝夜内には倫敦に達する事が出来るに反し、米國は面積が廣大であるだけに、郵便日数を要する事多く、爲めに金融集中が困難だからである。又米國が全國を十二の金融區域に分割して各々聯邦準備銀行を準備して居ると、英國が所謂ビッグ・ファイヴの金融網を利用して金融集中の便を圖つて居るとの間には、時間

的にも事務的にも非常な繁簡を生じて来る。英國は古い歴史を有する國であつて、金融組織も整然と安定して居るに反し、米國は國が新しい丈けに機械的分子をヨリ多く含んで居り隨て不安定であるといふ事も、兩者の金融上に異つた信用を持來すに相違なく、更に又巨額の外國勸定の資金が倫敦に保有されて居るといふ事も、倫敦よりも紐育の方が生活程度が高く隨て資金の需要が多いといふ事も無論金利に高低を生ずる原因として算へる事が出来るであらうが、兎に角米國人が英國人よりも常に高い金を運用しなければならぬといふ事は、即ちそれだけ米國人が餘分に儲けねばならぬといふ事であつて、米國財界の凡ての方面を通じて此影響は現はれて居る。

米國の銀行制度には著しい特色がある。米國には三萬以上の銀行があるが、それ等の多くは一都市及び其接續町村に限局された金融機關で各々頃合の大きさを有つて居る。歐洲諸國や加奈陀などに於て、少數の大銀行が多くの支店を全國に撒散らして金融網を作つて居るのとは大

にその趣を異にして居る。此制度は各銀行が銘々繩張りを定め、その繩張内に於て預金者若くは資金の需要者と親しく接觸し得る點に於て、極めて安全ではあるけれども、一朝資金が枯渴したり、背負ひ切れぬ程の大資金需要が起つたりした場合には甚だ不便であるのを免れなかつた。一九〇七年の恐慌は遺憾なく此消息を語つて居る。加之、此制度の下に於ては預金を貸出すにも十分の信用を利用する事が出来ず、各行とも非常時に應ずる爲めに十分の資金を常に準備して置かねばならなかつたので、到底近代式の産業發達に應じて遺憾なからしむる譯には行かなかつたのである。

されば是等の群小銀行を糾合し、全國的に鞏固なる金融網を作上げた聯邦準備銀行の制度が戦亂勃發前に開始された事は、米國に取つて非常な仕合せであつたと言ひ得る。若し此制度がなかつたならば、戦時に於けるあれ程の金融は恐らく不可能であつたに相違ない。併し一面此中央銀行が屢次政府の爲めに政治的に利用せられ、所謂弗外交の端を發した事も蔽ふべからざ

る事實である。

聯邦準備銀行に就ては後節に改めて説明する。

第二節 米國金融の中樞

米國にはフィナンシャ―（強ひて譯すれば金融業者）と稱する財界の怪物がある。戦前歐洲の資金を輸入する事によつて國內の富源を開發し、産業の發達を圖つて居た米國を、戦後一躍世界の最大債權國たらしめ、國際資本戦に號令して、弗を天下取りの旗印たらしむるに至つたのは實に彼等フィナンシャ―の御蔭だつたのである。

フィナンシャ―の本據は言ふまでもなく紐育である。彼等はウォール街の城砦に立籠つて、此處からその資本網を全世界に張り、偉大なる組織の下に弗を世界の舞臺に踊らせて居るのである。其主なるものにゼー・ビー・モルガン商會、クーン・レーブ商會、紐育第一ナシヨナ

ル銀行。ナシヨナル・シティー銀行。紐育ギヤランティ・コムパニー。バンカース・トラスト・コムパニー、第一信託貯蓄銀行。セリグマン商會、ブラウン兄弟商會、スパイヤー商會等があるが、就中モルガン商會及びクーン・レーブ商會の二者は丁度我財界の三井、三菱で、米國金融界に於ける二大系統の兩横綱たる地位を占めて居る。事實米國に於て賣出される發行物の運命は全く此二者の掌中に在りと言つても差支ないので、彼等が顔を出しさえすれば其系統に屬する何千といふ小フィナンシャ―が忽ち糾合せられて、どんな巨額な公債でも立所に消化して仕舞ふといふ程の偉大なる勢力の持主である。

昨春の日本の外債の場合などには此二大巨頭が共に引受團の一員として顔を連ねたけれども、元來モルガンはアングロサクソン系を代表し、クーン・レーブは猶太系を代表して居るので、其對立は時に凄じい商戦を捲起す事がある。されば見方によつては、米國の産業發達史は此金融界の兩横綱の争鬭史であると言つても不可ない有様なのである。

同じく事業に投資するにしてもモルガンは専ら英國から最初の資金を輸入したに對し、レープは主として獨逸の資金を吸引するといった風であつた。クリーン・レープは人種的關係から戰後モルガンの爲めに蹴落された觀があるが、二十世紀の初期に於ては當時米國産業の中心をなして居た鐵道の經營に最も力を注ぎ、鐵道王ハリマンと提携した爲め、クリーン・レープの産業上金融上に於ける勢力は寧ろモルガンを抜くものがあつた。殊に日露戰爭當時の日本との借款關係は、同系をして東洋方面に金融關係を開かしむる端緒となり、最近に至るまで日本との金融關係はモルガンよりも遙に密接なものがあつたのである。併し歐洲戰爭が始まるに及んで彼等が獨逸系の猶太人である事が禍ひして思ふ存分手足を伸すことが出来ず、對手のモルガンにスツカリその機會を利用して仕舞つた。さればクリーン・レープが今日その雌伏時代から羽音高く飛翔すべく、偏に獨逸との金融關係復活に腐心しつゝある有様は讀者の容易に想像し得る所であらうと思ふ。最近對獨公債成立後對獨投資團の計畫順に進捗せるを傳ふるは、如

何にもありさうな事柄である。

彼等は從來専ら歐洲から資金を輸入する仲介者として活動し、その資金は鐵道、製鐵、石油、鑛山、海運等の諸事業に投下されて居たのであるが、開戦後等は等の資本網が、米國より歐洲へ送り出す資金物資の貯水池として利用せらるゝに至り、彼等ファイナンスヤーの資本的勢力は正に旭日昇天の概がある。斯くしてモルガンの如きは事實上世界經濟界の羅馬法王になり了せたのである。今日モルガン王國の支配下にある主なる事業に、ユー・エス・製鐵會社、北太平洋鐵道會社、大北鐵道會社、ケネコット製銅會社、シンクレア石油會社、國際海運會社、玖馬精糖會社、ジエネラル自動車會社、ジエネラル電機會社等がある。

米國が資本の供給者として世界の資本戰場裡に現れたのは、比較的新しく大戰以後の事である。殊に彼等米國人は從來外國貿易や投資などには餘り重きを置いて居なかつたので、此方面にかけては殆ど素人であつたのであるが、戰後彼等の投資熱が非常な勢ひで昂まるに伴れて

米國にも色々な海外投資團が續出した。併しそれを詳しく説明する事は餘りに煩雜であるから今茲には唯その代表者として米國海外投資會社及び對亞細亞投資會社の名前を擧げる事だけに止めて置く。

更に此外米國にはフィナンシャリーでない純粹な事業家であつて巨富を致し大投資家となつたものがある。その代表的なものは人も知るロックフェラーである。彼はナショナル・シティ銀行以下多數の銀行をその支配下に置いてモルガンと相對した。どちらかと言へば、クリーン・レープの系統に近かつたので、ロックフェラー系の銀行は寧ろクリーン・レープ側の強味であつたとも言へぬ事はないが、戰爭後多少その形勢に變化を來して居る事は之を認めぬ譯に行かない。それ丈けモルガン系の勢力が伸暢したのだと見得ぬ事もないが、ナショナル・シティ銀行として米國の第一位を占め、全然フィナンシャリーから獨立した地歩を固めた事や、同行がその證券部を證券賣捌業者として別にナショナル・シティ・コムパニーの名に於て獨立

せしめて成功した事なども見通し得ない原因をなして居る。少くとも今日ではモルガンでもクリーン・レープでも此機關を度外視しては巨額の證券引受は到底覺束ないほど、同會社は國際證券引受機關としてその網を世界的に張る事に成功したのである。

然らば是等のフィナンシャリーを中心として、米國は世界の産業の上に何程の資金を供給して居るか。コンマーシアル・エンド・フィナンシアル・クロニクル誌に據れば左の如くである。

一九一九年	四、二八六、〇〇〇、〇〇〇
一九二〇年	四、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇
一九二一年	四、二〇三、〇〇〇、〇〇〇
一九二二年	五、二四四、〇〇〇、〇〇〇
一九二三年	四、九八六、〇〇〇、〇〇〇
一九二四年 (九月まで)	四、六四三、〇〇〇、〇〇〇

一九二四年は九月までに既に四十六億弗餘の新資本を發行して居り、十月に入つてからは更に對獨公債の引受等があつたから、一年を通算すれば六十億弗を突破するだらうと觀測されて居る。

第三節 米國の證券取引

(一) 紐育株式取引所 米國の證券取引は殆ど紐育一市に集中され代表されて居ると言つてもよい。其關係は次表に一瞥を與ふれば極めて明瞭である。

米國主要都市に於ける手形交換高(一九二三年)

紐育	二一四、六二一、四三一、〇〇〇 弗
市俄古	三〇、八九九、六六二、〇〇〇
費府	二四、六四九、〇〇〇、〇〇〇

ホストン	一九、〇六八、三六九、〇〇〇
桑港	七、九一七、五八九、〇〇〇

而して紐育に於ける證券取引の中心をなすものは言ふまでもなく紐育株式取引所である。一日の出來高五十萬乃至百萬株、此處でも世界第一といふ言葉が米國人によつて占有されて居る。仲買人の數は現在千百名と制限されて居り、缺員が出來ても希望者が多いのでその地位は五六萬弗を拂はなければ手に入らないとの事である。場は午前十時から三時まで、五百種の株式と同數の債券とが上場されるが、市場の景氣を代表するものはユー・エス・ステール株だとされて居る。米國財界のパロメーターとして我市場に重大な影響を齎らすのは實に此株である。

ユー・エス・ステール・コーポレーションは製鐵、海運、造船、鐵道、船渠、炭鑛其他數十會社を網羅し、八億六千八百餘萬弗の拂込資本を擁する世界産業界に於ける一大トラストであ

る。此會社は設立當時例のアンチ・トラスト法に抵觸するといふので盛に壓迫されたものであるが、前代モルガンの手腕によつて漸く此難關を切抜け今日の大をなしたといふ履歴を有つて居る。戦亂勃發當時は業績頗る擧らなかつたが、其後の活動は實に目覺ましいもので、戦時中二億三千万弗の戦時利得税を支拂つて居つたといふ事だけでも其一斑は察し得るであらう。

更に我國の財界に取つて重要視されて居るものにアナコンダ鋼株がある。アナコンダ製鋼會社は最近十二年間に十五の製鋼會社を合併し、更に十二の鋼會社を管理する資本金三億弗の大會社で、最近銅界不振のため以前ほどの活氣はないが、同株の出來高は尙ほ日々一萬五千株乃至二萬株を算し、依然一流花形株としての名譽と權威とを保持して居る。

アナコンダ會社は、ロックフェラーを最大投資者とする世界銅界の覇者で、一九二三年の産額は十八萬三千餘噸に達して居る。同年に於ける全米の産銅額は九十七萬一千餘噸であるが故にアナコンダ社はその二割九分を賄つた勘定である。

それは兎に角、紐育の株式市場を論ずるには先づその根底をなして居る金融關係を考察する必要がある。紐育市場に於ける金融の特色は日本などと異り株式擔保で資金の長期融通を主としない點にある。即ち株式市場に向つて動いて居る資金の三分の二は一時貸であつて、定期貸は僅々その三分の一を占むるに過ぎぬ。此現象は正に米國銀行に於ける預金狀態の反映であつて、其源は聯邦準備銀行が株式擔保付手形の再割をしない事に發して居る。何故ならば若し市中銀行が定期貸の形式で株式市場に資金を融通したとすれば、その期限が到來するまでは之を還元する事が出來ぬので、其間その資金は固定して仕舞ふが、一方米國の銀行には資金の長期に互る固定を許さぬ事情があるからである。商取引が頻繁となれば商人は手形を割引して貰つて資金を作る。そしてその資金は、これを當座預金に振替へられるのであるから、米國のやうに當座預金が全預金額の三分の二を占め、残りの三分の一が定期預金であるといふやうな國柄では、勢ひ銀行は長期に互つて資金を固定せしむる事が出來ない。此點から言つて、米

國の銀行が株式市場にコール・タイムとして放資したとすれば、それは商品界が沈衰して當分其方面の資金需要がないといふ見極めが付いた場合であると見て差支ない。だから財界の熱狂時代は別として平常は物價指數の下がる時期と株界の好況時とが自然一致するやうになつて來るのである。

(二)カーブ・マーケット

紐育株式取引所以外に證券賣買機關として街上市場なるものがある。取引所に程近いブロードウエーの街上に賣買者相會して取引する市場で、取引所としての外形的設備はないけれどもその取引高の多い事は全國を通じて紐育株式取引所の次位に位する。

此市場は主として取引所に上場されない會社の株式又は新設會社の株式を取扱ひ之に對する投資家の注意を喚起せしむる作用をなして居るが、尙ほ其他の特色としては、未發行證券の權利賣買をする事並に時價の極めて少額なる株式に對して市場を提供する事の二點を擧げる事

が出来来る。其結果時に非常な危険もあるが、又同時に新會社の産婆役として役立つ事もある。取引する證券は五千種以上に上つて居るが、日々賣買の行はれるのはその内の二百五六十種である。開市時間や受渡規則等は全然紐育株式取引所と同一で、現在組合人五百五十人、内三分の一は紐育株式取引所の會員である。最近一日の出來高約三十五萬枚、五十萬弗の商ひがある。

第十一章 貿易獎勵の施設

第一節 船舶に對する保護

米國の造船業及び海運業に對する保護は、佛伊等の諸國に行はるゝが如き一般的保護金下附の方法とは少しく其行き方を異にして居る。抑も米國政府が此方面に對する獎勵策を具體化したのは一七八九年七月四日の關稅輕減法に始まる。米國政府は之によつて米國船による凡ての輸入貨物に對する一〇%の關稅免除を行ひ、更に同月二十日、外國船に對する噸稅を加重して間接に米國船主を保護し、一八一七年には遂に外國船に對する沿岸貿易を閉鎖して大に其色彩を濃厚にしたりした。米國が始めて郵便船に對する補助金制度を採用したのは一八四五年であるが、其後同法の廢止せられた一八五八年までに、米國政府が支出した補助金は約千四百四十

萬弗であつて、之を同期間に種々の目的のために鐵道に對して許容された補助金額に比すれば洵に僅少の額たるに過ぎなかつたのである。尤も其後郵便航送補助は一八九一年に再び復活されたけれども、同法の規定は建造並に乗組員に就て極て嚴密なる制限があつた爲めに、概括的に見て、此郵便補助法が米國の造船、海運業に寄與したる分量は甚だ輕微であつたと言つて差支がない。之に反し米國の海外貿易船の發展に重大な關係を有つたのは一九一二年の巴奈馬運河法である。蓋し同法によつて船齡五年以内の外國製造船は米國船として自由に登録し得るに至つたのみならず、凡ての造船材料並に部分品はそれによつて建造されたる船舶に何等の條件を附する事なしに一切無稅を以て取扱はるゝに至つたからである。而かも此船齡に關する制限は一九一四年の船舶法に於て全然削除されたのであつた。之を要するに米國の造船、海運業に對する保護案は、特殊の補助金交付以外には、主として造船業者に對する低資融通、沿岸貿易の獨占、自國船に對する港灣、運河使用料其他課徵金の免除、造船材料の無稅輸入、自國船

による輸入貨物の特惠關稅、鐵道特定運賃の設定等の形に於て具體化されたのである。

輸出獎勵金は最初貨物を輸出する輸出商に直接交付されたものである。此方法は貿易上の出超を金科玉條とする所謂重商主義政策の現れであつて、兎に角一八一六年までは實施されたが今日では殆ど其跡を斷つに至つた。他なし此方法は内國市場に於ける價格を高めても唯外國に安く輸出しさえすれば可いといふ事になるので、爲めに凡ての生産が外國市場に對する供給のみ集中し、各國競争の結果結局共倒れの愚を演ずるに至る虞れがあるからである。されば一時甜菜糖の輸出に此方法を採用した獨逸の如きも、一八九一年には、關稅拂戻による間接保護策に轉換し、一八九六年にはそれも廢止するに至つた例がある。米國に於てはアレキサンダー・ハミルトン等の熱心なる唱道があつたに拘らず、此種の獎勵方法は殆ど其發芽を見ずして今日に及んで居る。

更に米國の海運を論ずるに當つては、その沿岸並に内海航路に従事する船舶の發達を忘れて

はならぬ。是等の内航船舶は外航船舶の凋落に似ず、逐年健實な發達を遂げ、現に六百十隻二百三十五萬二千噸の有力なる商船隊を築き上げて居る。而かも是等の船舶業が何等の國家的補助もなく此所まで發達したといふ事は大に注目すべき事實である。

第二節 政府機關の活動

米國の實業家には一般に事の善惡に拘らず、民間の事業に對する官邊の干渉を悦ばない風がある。彼等の多くは彼等自身の問題に就て、彼等自ら會商し、判斷し、其結果を自ら刈入れだけの自信と勇氣とを有つて居る。此あたりは遺に米國人の偉い所で、一寸難局に立つと直ぐに救済を叫んで一も二もなく政府に泣付く我日本の實業家などとは餘程その行き方を異にして居る。随つて米國に於ては戰時非常の際と雖も、官僚式の管理は比較的に入りしなかつたのであるが、併し羅馬は一朝にして築かれたものではない。米國貿易の驚嘆すべき大發展にも

矢張り色々な官民の努力が見事に織込まれて居る。茲にはその原動力とも見るべき政府の施設並に戦時中に設けられた諸機關にして、今日尙ほ貿易發展の中軸となつてゐるものに就き、その大體を説明する事にする。

上院下院がその立法的権能により、又大統領が(一)上院若くは行政首腦者の意見に同意し又は警告を與ふる事により、(二)通商條約の締結により(議會の同意を要するが)更に又(三)教書並に命令を發し得る權能により、貿易を奨励し又は制限し得る事は説明するまでもない事であるが、フォード・マツカンバー關稅法によつて、相互關稅の設定、關稅率の變更等に就き從來よりも大統領の權限が大に擴張せられた點などは此問題を取扱ふ上に於て相當注目に値する。其他世界各市場に於ける事務所、倉庫、工場等の賣買に關する國務省の態度方針の如きも無論貿易の消長に密接な關係を有つて居るが、此省の管轄で特に掲げる必要のあるものに經濟參與官の制度がある。

専ら關稅、關稅規則、通商條約、金融、海運、取引等の問題に就き、對外貿易上の諸現象を調査し之に意見を附して經濟政策決定の資料を供給するを以て職務とするもので、戦時には主として禁制品並に交戰國の貿易制限に關して生ずる諸現象の調査に従事して居つた。随つて此經濟參與官は獨り外交官、領事を始め各省の經濟關係局課と密接なる關係を有するのみならず、又他面を於ては種々の商業機關並に實業家連中とも直接接觸する必要に立つて居るのである。此官制は一九二一年改正せられ、從來其一課であつた情報課を通商局に移し、爾來外交官及び領事よりの報告蒐集分配事務とそれ等を基礎とする調査立案との間に截然たる區別をつけ、事務の混淆重複を避ける事にした。其他通商局の官制及び事務等は略我外務省通商局のそれと同一であるが故に茲にはその説明を省くこととする。

更に軍務省の管掌中、その技術部の仕事は外國貿易に大關係を有つて居る。何となれば、河川、港灣の改修、道路の修築、其他測量等の事項が同部に屬して居るからである。就中米國

貿易に及したる影響の最も大なるものは巴奈馬の開鑿であつた。同運河の開通は大戦勃發後間もない事であつたが、少くとも大戦亂が始まつた一九一四年の八月初旬には、まだ巴奈馬運河の價值といふものが世人の頭にピンと響くほど明確に意識されて居らなかつた。それがどうであらう、第一船たる米國商船アンコナ號が一度此處を通つてからと言ふものは、世界の交通に革命的變化を與へたではないか。米國の貿易に就て見れば、嘗に大西洋、太平洋兩岸の米國諸州を接近せしめたのみならず、米國の東海岸と南米西海岸及び支那、日本、西比利亞、濠洲、新西蘭等の市場との貿易を刺戟し、西海岸の諸州に取つては、殆ど絶望的であつた南米の東海岸並に歐洲諸國との航海距離から来る障礙を苦もなく排除く事が出来たのである。其他比律賓、ポートルコ等の屬領に於ける經濟事情報告が一切軍務省の手によつてなされつゝあるといふ事も看過すべからざる項目の一つである。

大藏省の貿易上の關係は主として關稅、保稅倉庫、戻稅等の問題に關聯して起るが、戦時中

にあつては戦時保險局の事務が、殆ど同省に於ける貿易獎勵の全部を代表して居つたかの觀があつた。其他一九一五年に汎米金融會議を開いて南北兩米間の取引を單純化した事や、聯邦準備法により、ナショナル銀行を通じて、米國外國貿易の大部分のために資金を融通した事なども、貿易の伸張に效果のあつた事は言ふまでもない。

次に農務省の關係に就て見る。最近に至るまで米國の輸出品と言へば、主として農産物であつた關係上、外國市場に關する情報は先づ第一に農務省の手に依て蒐められたものである。斯くして一八四四年には既に各種の輸出品に就き、その相場付けやら、市場開拓に對する注意やらを載せた立派な報告書が出来上つて居つた。一八六六年以降はその情報の蒐集及び報告方法が更に一段と組織的になり、遂に完備せる今日の農業經濟局の組織まで發達して來た譯であるが、同局が今日世界到る所の農産物に關する報告並に統計を、殆ど發表と同時に之を自由に手に入れ得る仕組にまで漕付けたといふ事は、並大抵の努力ではなかつた事が分かる。併し實

を言へば、最近までは米國人はその農産物の捌け口に就てそれ程神経を失らしては居らなかつたので、彼等が唯賣るといふ事と飽くまでも有利な條件で賣るといふ事との間には非常に大きな相違の存する事に氣付き出したのは、一八九八年、政府が始めて海外に於ける農産物市場を獲得すべく、農務卿監督の下に之に關する一課を特設するに至つた時分からの事である。

此市場課は一九〇三年に至り現在の統計局に合併されたけれども、その仕事は市場情報局の活動と相俟つて、米國の生産業者並に貿易業者に一大指針を提供しつゝある。尤も今日では是等の局の仕事は一般貨物を通じて行はれるやうに改正されたので、穀類、棉花、豚、植物性油等に就ては更に別に其道の専門家がそれ々々任命されて居る。外國貿易に關する農務省の仕事が、領事、商務官、貿易事務官等の援助を受けつゝある事は説明するまでもない事であるが農務省は又獨立に倫敦、伯林、ブエノスアイレスに事務官を常置する外、歐洲主要都市にはその代表者を派遣して、特に米國農産物の價格、消化の程度及び他國品との競争状態等を精細

に調査報告せしめて居る。更に農務卿が農産物及び家畜に對する檢疫、證明の局に當つて居る事も輸出入貿易に少からざる關係を有つて居る。殊に最近萬國棉花會議を華盛頓に開催して、一九二三年三月に議會を通過した米國棉花格付法による格付標準を世界的に承認せしめたことの如きは、少くとも米棉取引の上に偉大なる強味を加へたものと言はねばなるまい。

郵政省の所管事務中、外國貿易と最も深い關係を有つて居るものは國際小包郵便である。尤も米國の小包郵便には重量十一封度以下、長さ六呎の制限があるので、大貨物の輸送に之を利用する譯には行かぬが、手袋、靴、裝身具、日用器具の如き比較的嵩の小さい商品は、専ら小包郵便によつて輸出されたものである。されば郵政省の努力によつて、戰前四十二箇國に過ぎなかつた小包郵便の仕送先が、百八十國に増加(一九二二年)したり、而かも其内十五箇國に對しては、小包郵便の重量制限を從來の十一封度から二十二封度まで引上げたりした結果が、如何に米國の輸出貿易に貢献したか、それは深く考へて見るまでもない事である。

此外尙ほ米國の貿易機關として擧げねばならぬものに、輸出組合委員會、戰時金融會社、船舶局、聯邦準備局、汎米組合、汎米高等委員會などがあるが、前三者は戰時中の所産であるが故に、説明の便宜上之を後廻しにし、聯邦準備局の貿易上の機能から觀察する事にする。

米國には一九一三年即ち亂戰勃發前年十二月の法律改正によつて、中央銀行としての聯邦準備銀行なるものが出來、戰前から商業上の資金供給者として活動を始めたのであるが、聯邦準備局は此聯邦準備銀行に於ける引受手形の再割引に就て命令權を有つて居る關係上、同局の態度は善かれ悪かれ手形再割引の要求者を通して結局商品の積出に影響を有つて來る。殊に同局發行の月報は最初銀行家のために創められたものであるけれども、その載する所の貿易品指數、爲替相場、各國に於ける主要商品卸賣價格、船舶運賃等は今日では輸出入業者の羅針盤として無くてはならぬの、一に數へられて居る。更に注目すべきは同局統計課の企てつ、

ある國際物價指數の作製である。之によつて困難な各國に於ける異つた貨幣の購買力比較が出来る譯で、貨幣下落國の國際市場に於ける競争利益の如きも自ら明かになつて來る。

汎米組合は一九一〇年南北兩米間に於ける福利増進のために創設されたもので、合衆國を首め南米の各共和國政府によつて支持されて居る。その最高機關は米國國務卿及び南米諸國の華盛頓駐劄使臣によつて組織され、南北兩米諸國の政府は勿論、相互の貿易組合、商業會議所、運送會社、製造業者、輸出入業者間に於ける經濟的接近の道が講ぜられつゝある。それが如何に米國の對南米貿易を有利に導きつゝあるかは、最近同組合に對する各方面の照會が著しい増加を示して居る事によつても分かるであらう。同組合の事務局には、各國の統計係、貿易係、圖書係、交通係、編纂係及び記者が居り、英語、西班牙語、葡萄牙語と三様の國語で毎月機關雜誌を發行して居る。

汎米高等委員會は、一九一五年の第一回汎米經濟會議に出席した各共和國の官吏によつ

て組織され、主として(一)商品關稅規則、港灣使用料、商用旅行者の待遇、領事の證明方法等に就きその統一(二)商標、特許、出版に關する國際的保護(三)郵便料金の引下げ、郵便爲替及び小包郵便の改善(四)商業上の紛議の仲裁(五)金融及び信用機關の擴張等のために活動を續けて居る。

以上私は主として米國に於ける各方面の機關が、如何に貿易振興のために努力し來つたか、そして又如何に貿易振興といふ大きな政策の下に、協力一致しつゝあるかといふ事實の概要を説明した。が、其中心をなすものは無論商務省である。併し私は茲に商務省の組織や同省の貿易伸暢に關する施設などに就て詳述する煩を避けようと思ふ。何故ならば貿易振興に關する各方面の施設は皆悉く商務省を中心として回轉するものではあるけれども、商務省は之をその展開運動の中心として觀察するよりも、寧ろ貿易其ものを生命とする機關であると見るのが妥當だと考へるからである。換言すれば、私は最初から讀者の前に米國の商務省を仔細に解剖し

て御目にかけてようといふ積りではなかつたので、寧ろ反對に、商務省以外の機關が貿易振興といふ大目的のために如何に協同的精神を發揮したか又しつゝあるかといふ點を説明したかつたのである。されば茲には、問題を單に商務省が如何にして外國貿易上の情報を集散し處理するかといふ點だけに局限し、之を通して商務省なるものゝ輪廓と内容を窺ふ便宜に供するに止めようと思ふ。次の表は一九二三年六月十一日の商務省報告書から抜いたものである。

第三節 開戦後に於ける特殊の施設

これで大體平時に於ける米國貿易施設の説明は終つた積りである。以下戦時の必要に驅られて現はれた施設にして今日尙ほ存續し、米國の經濟を論ずるに當つて是非とも考慮の中に置かねばならぬ所のものに就て簡單な説明を附加して置かう。

米國では從來政府が直接事業に手を出さずといふ事は殆どなかつたので、其例の開かれたのは實に「戦争のために必要已むを得ぬ」といふ國民の諒解があつての事だと言つて差支ない。併し唯一片の布令を以て、延長二十六萬哩、資本金百七十五億弗、從來員百萬人と稱せらるゝ米國の全鐵道が、一夜の間に政府の管理に歸して、何等實行上の障碍を見なかつたりする所を見ると、政府と民間との意思が我國などと違つて平素から如何によく疏通して居るかを想像する事が出来る。其他物價の調節にしても、輸出の禁止にしても、突然之を實行して何等の支障も

起らなかつた。これなどは全く民間の人が直に政府の役人となつたり、政府の役人が直に野に下つて民間實業界の人となつたりする所謂米國式の政治のやり方が國民の諒解を容易ならしめた結果だと言ふべきであると思ふ。

(イ) 輸出貿易組合法

戦時動員の形に於て行はれた商工業管理中最も重要なものは、

一九一八年の輸出貿易組合法即ち提案者の名によつて普通ウェップ法と呼びなされて居る所の法律である。從來米國にはアンチトラスト法なるものがあつて、大資本家の勢力を増大せしむる傾向のある資本の合同とか價格の協定とかを制壓して來たものであるが、此ウェップ法は輸出貿易に就て其除外例を規定したものに外ならぬ。即ちアンチトラスト法の適用を受けない結果、輸出に關しては資本の合同も價格の協定も一切お構ひなしといふ事になつたのである。如何に米國が戦後に於ける自國商品の販路擴張に留意したか、窺はれるではないか。此法律によつて出來た輸出組合委員會は必要に應じて議會に建議する外、貿易上の紛議を調査する職務を

も有つて居る。

(口) 戦時金融會社

前にも述べた如く、米國には戦争の一寸前に、聯邦準備銀行といふ中央銀行が出来て、戦前既に活動を開始して居つたのであるが、戦争が始まつてからは何分多額の長期資金を要する破目となつたので、そのために何か別に、特殊の機關を必要とするといふ議論が起り、遂に一九一八年五月戦時金融會社の創設を見るに至つたのである。名は會社であるけれども五億弗の資金は全部政府の持株で、會社は拂込資金の六倍まで社債を發行し得るが、或る特定時に於ける貸出は十億弗を超ゆべからずといふ制限を受けて居る。その目的は工業資金の供給にあり、そしてその運用は最初銀行を通じてなされる事に規定されて居つたけれども、同法は一九一九年三月議會を通過したヴィクトリー公債法によつて改正せられ、爾來同社は貿易業者に輸出資金を融通する所謂貿易銀行に資金を供給する外、一定の條件の下に個人、會社、組合等に對する輸出資金の直接貸付をも認めらるゝに至つたのである。斯くして

戦争遂行のために必要なる工業に投資すべく出来た戦時金融會社、而して平和の調印後六箇月にして消滅すべかりし戦時金融會社は、戦後新たなる法律の力によつて、更に貿易振興のために、貿易業者並に貿易會社に對する金融機關として活動を續ける事になつたのである。

併し一九一九年の末までは、大藏省が直接に外國政府に對し巨額の貿易資金を貸付けたり、陸軍省が外國に對し貯藏品の信用賣りを始めたりしたので、同社の手を煩はした輸出資金といふものは殆どなかつたと言つても差支ない。同社が輸出奨励の目的で最初の大口貸付をしたのは實に一九一九年十二月も押詰つた二十三日の事である。翌一九二〇年は國內商品市場が甚だ振はなかつたので、戦時金融會社の繁昌は並大抵でなかつた。一九二一年一月に至り、議會が早速同社のために「農産物其他の商品の輸出資金を融通する目的を以て」といふ決議を採用して、明確に其活動を復活せしめたのを見ても其一斑は窺はれるであらう。斯くして棉花、小麥、乾果、罐詰果實、蔬菜類、煙草、煉乳、肉類の輸出振興を見るに至つた譯であるが、製造品の

輸出に對する資金融通は、鐵道材料、銅、製糖機位のもので、農産物に比すれば甚だ限られたる範圍のものに過ぎなかつた。

茲に注意すべきは、此戦時金融會社の存續に就ては各方面に有力な反對のある事である。イリノイス大學のリットマン教授は其著「國際貿易の本質」に於て此問題に論及し戦時金融會社の平時に於ける施設としての復活は、到底辯護の餘地がない。箇人的利益のために大藏省が資金を融通するが如きは其の職能を越えたものである。若し此の如き事が許さるゝならば、政府の仕事は際限もなく膨脹して止まる所を知らぬであらうし、又それだけ民間の銀行及び金融業者を不當に壓迫する結果となる。と述べて居り、費府の貿易委員會からは議會に對し、國家が此種の事業に手出しするのは、實に民間金融業者を壓迫するのみならず、一般納税者の負擔に於て特定人の利益のみを保護するものであるとの攻撃的決議が出て居るといふ始末である。戦時金融會社復活法案はウイルソン大統領のヴェートーに拘らず、遂に法律とな

つたもので、當時の大統領の教書にも、戦時金融會社の復活は國民をして期待すべからざるものに對し謬つた希望を起さしむる虞があり、隨つて事業及び金融の健全なる發達を阻害するものであるといふ意味が認められてある。

(ハ) 船舶法

船舶局は一九一六年九月戦争の影響裡に制定せられた船舶法によつて設定されたもので、(一)海軍補助艦艇の建造獎勵及び米國貿易の要求に應ずべき商船隊の完成(二)外國貿易並に州際貿易に従事する船舶の管理を目的として居る。そこで船舶局はその第一の目的を達するために、一九一七年四月五千萬弗の資金を以て戦時商船會社を設立したのであるが其後二箇月にして船舶局の權限は造船所の管理にまで擴張され、一方新船の建造に努力すると同時に、他方州際商業委員會と協力して諸港に於ける滞貨の消化方法を調査したのであつた。同局は其他尙ほ種々の義務を負はされて居たが、外國船舶の不當なる競争に對し米國船を保護するために色々な手段を講ずる事は、その最も重要な任務の一つであつたので

ある。

船舶局の組織は一九二一年に至つて改革された。これは一九二〇年一月の商船法の要求に應ずる爲めで、從來主として戦時商船會社の監督者として活動して居たものが、今度はそれを第二次の仕事として、専ら船舶局としての獨立した政策即ち米國貿易の遂行に必要な船舶の建造並に貿易の振興に對する直接調査を實行せんが爲めの用意であつた。船舶局の報告書中にも、船舶局が荷動きの状態を知らなかつたり、又海外に代理店を有しなかつたりして、どうして其職責を果す事が出来るかといふ事を議會が認めなかつたならば、到底外國貿易に應ずる造船計畫は樹て得なかつたであらうと述べて居る。

第十三章 ドーズ案と米國財界

第一節 ドーズ案の骨子

大戰亂の結果、世界の富力分布は一變した。從來世界に彼等の經濟的優越を誇つて居た英、佛、獨等の歐洲諸國は何れも債務國となつて米國金權の前に跪つかねばならなくなつた。斯くして弗萬能の時代が來、米國の弗は世界を我物顔に瀾歩するに至つた。歐洲復興の大事業と雖も今日米國の資本力を借らなければ如何する事も出来ない立場にある。長い間歐洲政治經濟界の癌腫であつた獨逸賠償問題解決の曙光を見出すべく、歐洲の政治家が一も二もなく米國のドーズ案を鵜呑みにして喝采されたのも是れが爲めである。

ドーズ案は獨逸の賠償問題を根本的に解決せんとする倫敦會議の核心であつた。随つて歐洲

の經濟界は之を中心として廻轉し、米國の經濟界は更に其周圍を旋回すべき關係にある。

然らばそのドーズ案とは如何なるものであるか、此問題に就ては何れ本財政經濟大系中の「歐洲經濟の見方」の中に説明されるであらうと思ふが故に、詳しい事は其方に譲り、私は今此處に同案の提案者が今度選舉された米國の副大統領ドーズ氏であるといふ關係から、米國が之によつて何を期待したかといふ事を知る爲めに、極めて簡單な説明を付加へて置かうと思ふ。

一九二三年十一月聯合國賠償委員會は、獨逸の資源と支拂能力調査のために二種の専門委員會を設置することにした。即ちその第一委員會は獨逸の豫算及び通貨安定策を調査するものでドーズ氏が委員長となり、第二委員會は獨逸の海外資本調査を目的とするものでマッケナ氏が委員長となつた。斯くして一九二四年正月以來委員會並に總會を開く事幾十回四月に至つて漸く報告書が出来上つた。その第一委員會の報告が即ちドーズ案として知らるゝ所のものである。

ドーズ案によれば獨逸の賠償金は罰金を取立てるといふ意味ではなく、單に債權を安全に回収する意味で、純經濟的に解決すべきものであるとなし、歐洲全體の復興策を實行する方法として當事國が皆誠意を以て事に當らん事を希望して居る。

若し獨逸の産業状態が是れ以上改善の道がないとなれば、賠償金の支拂などは全然問題にならないのであるが、同委員會は此點に就て寧ろ樂觀的見解を下し、將來に於ける生産能力増加の原因として、人口増加、技術の進歩、科學の應用、資源の豊富等を挙げ、更に獨逸政府は凡ゆる手段を講じて鐵道政策の遂行、通信機關並に港灣の完成に努力して居ると報告して居る。

又同案は通貨の安定に就き、現在のレンテンマークによる安定は一時的のものであるが故に、更に恆久策として金紙の開きを生ずる虞のない準備制度の下に紙幣を發行する事を規定し、その爲めには新に發券銀行を作るか然もなくば帝國銀行の組織を此目的に合致するやう改善する必要があると説いて居る。

賠償金は凡て之を前記銀行の特別勘定として預金し、債權國は獨逸經濟界の利益を害せざる範圍に於て之を引出すことが出来るといふ事にしてある。

その代り獨逸國民は少くとも聯合國民が負擔すると同程度の租税を負擔せねばならぬ。そして酒精、煙草、麥酒、砂糖、關稅の五種の歳入は賠償支拂金附帶保證として擔保に供する事になつて居る。(過剩收入は無論獨逸政府に返還する)斯くして八億金馬克の外債を起し、外債手取金を新銀行の預金とし、金準備を確實にしようといふのである。

第二節 ドーズ案實施に伴ふ影響

ドーズ案に基く八億金馬克の獨逸外債は既に各國に於て盛況裡に募集済みとなつた。これから同案實施の効果が世界的に現れようといふのであるが、歐洲諸國間に於ける關係は直接本書の取扱ふ範圍でないから之を省略し、茲には専ら米國の財界を中心として、如何なる變化が

起るであらうかといふ點のみに觀察を向ける事にする。

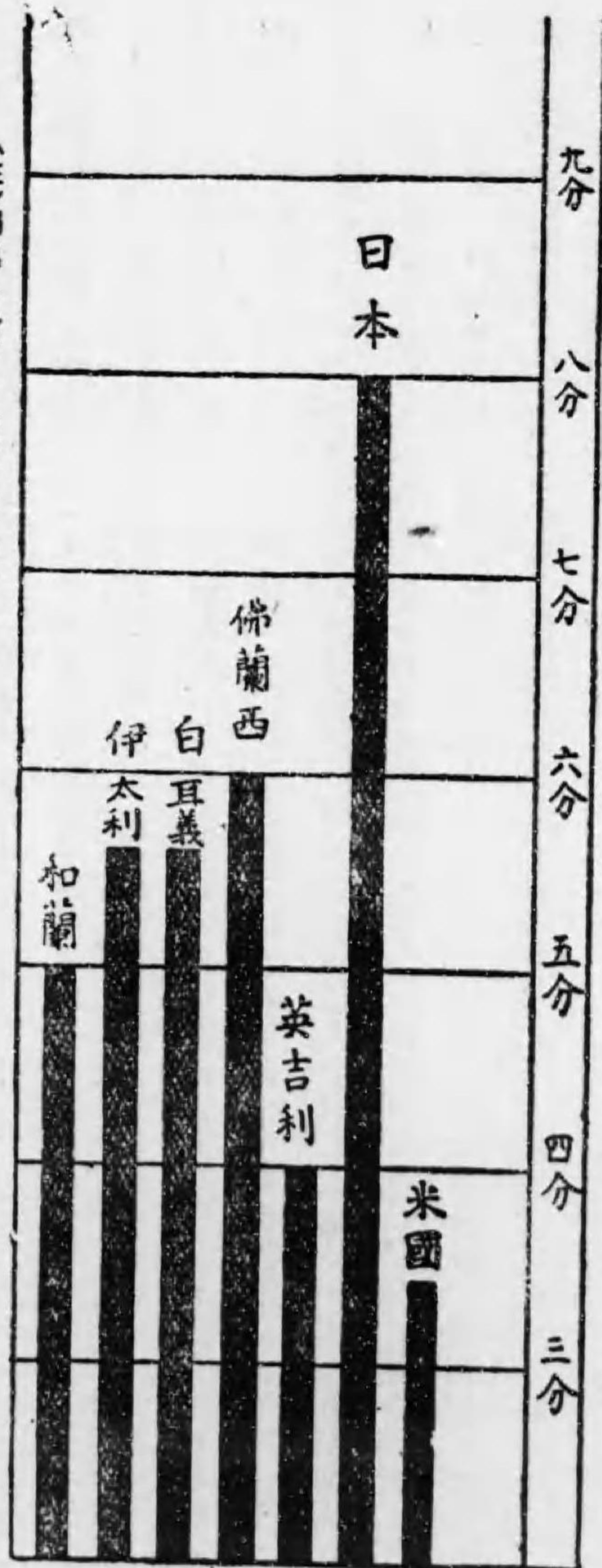
先づ第一には此ドーズ案といふ溝渠を通して資金の比較的潤澤な國から歐洲への資金移動が始まる譯であるが、黄金の洪水に苦しんで居る米國が此資金供給の第一人者である事は説明するまでもない事である。扱て愈々資金が供給されたとなれば、歐洲諸國の爲替相場は相當恢復するであらうし、又資金缺乏のために振はなかつた產業界も大に活氣を呈するに相違なく、それだけ歐洲の財界は安定して行く。その結果は無論米國その他諸國の對歐輸出増加でなければならぬ。併し茲に考へねばならぬ事は、米國其他諸國の對歐輸出旺盛は、歐洲諸國の工業的復活が完成されるまでの間の話であるといふことである。若し斯の如くにして歐洲の財界が安定し、原料品その他の必需品が充實せらるゝに至れば、歐洲諸國は今度は國際的分業の理法に随つて各々その對外輸出の増進を企圖するに相違なく、茲に激烈なる國際商戰の幕が切つて落される。即ち之を米國の側から見れば、今日に於ては歐洲の財界を復活せしむる事が自國貿易伸

場の唯一の條件であるけれども、將來歐洲の財界が恢復し切つて仕舞へば、米國はそこに偉大なる貿易上の競争者を見出す譯で、變態的に膨脹した米國の貿易はそこで節にかけられ、斯くして始めて世界の各事業が國際的に整理せらるゝ時代が来るのである。

併しその時代が何時來るといふことに就ては到底正確なる答へは與へられない。唯歐米諸國間に於ける金利の差異といふものを基礎として、歐米間の資金大移動が何時まで續くであらうかといふ事を考へて見るの外はない。現在に於ては米國と歐洲諸國との間に、その中央銀行の割引歩合に左表に示すが如き著しい懸隔がある。吾々は唯其距離を基礎として、それが或程度の接近を示すに至るまで、資金の移動はまだ相當の期間繼續するであらうといふ事を想像し得るに過ぎないのである。

各國中央銀行割引歩合

(一九二四年十二月現在)



(註)獨逸に於ける金利は十割である

併し金物類に就ては既に一九二一年の始めに米獨間に競争が始まつたといふ事を商務省が報告して居る。墨西哥駐在のブローム領事の報告によると、獨逸の商人は米國品よりも遙かに安く、而かも六箇月間の延取引で金物類を賣込んで居る。獨逸商人に斯んな餘裕の出來たのは一に米國の金融的援助の賜であるのだが、それが米國の商賣敵として現はれるなどは世の中は却々皮肉に出來上つて居る。ブローム氏が「これではまるで自分の費用で商敵を育て、やつてるやうなものだ」と評したのも無理はない。商務省の發表した所によると、是等の獨逸品は既に米國の市場にまでも入込み、僅かな數量ではあるが、それだけ米國の勞働市場を壓迫して居るとの事である。今日獨逸から英國に輸出する商品の中には、銅、棉製品、染料、エナメル器、硝子製品、鉛、皮革、印刷機、自動車部分品、自轉車、硝石、棒鐵、亞鉛、ボタシウム、精糖、毛織物等の項目が數へられて居る。

殊に一九二四年に入つてからは、歐洲の產業界は爲替相場及び物價の動搖が其幅員を縮少す

るに連れ漸次活況を呈し、一九二三年の末期から翌年五月まで續いた歐洲諸國の大失業狀態も次第に緩和を見たので、一九二三年前後の事業沈衰は漸く其面目を一新せんとしてある。

英國に於ても最近事業界の活躍は先づ失業者數の減少といふ事實に現はれた。一九二二年の五月に一六・四%を示して居つた失業者は一九二四年には七%を算するに過ぎなくなつた。鐵道輸送貨物の哩當り噸數は一九二四年三月に新記録を作り、又石炭の産額は前年と略同額であるけれども、輸出が減少して國內消費が増加して居る。是れ國內に於ける製鐵業が活氣を呈した結果で、鉄鐵は尙ほ前年の最高額を抜くに至らぬが、鋼鐵は五月に最大額を産出して居る。斯の如くにして英國の貿易は價額に於ても數量に於ても、確實に増加の趨向を示し、輸出は石炭の大減額があつたに拘らず、一九二三年の數字を抜き、輸入もまた製造品原料の激増を見たので、一九二四年上半期の數字は戰前の平均額以上に上つて居る。

更に獨佛とても同じ事である。一九二四年に入つてからは貿易、海運等何れも前年と見違へ

る程の成績を示し、佛國の如き其鐵道貨物の大膨脹を見れば國內商況の活潑さがよく判る。之を要するに、倫敦會議に於てドーズ案が採用され、獨逸賠償問題が解決されたといふ事は換言すれば米國がその資本の投下の畑を歐洲に確立したといふ事であつて、今日まで常にその捌口の問題で煩悶しつゝあつた米國資本に一大新生命を吹込んだものである。斯くして海外投資に一步を進め、對歐洲投資を積極的に解決し得た米國が、今度は對南米、對東洋の投資問題に頭を突込み、全世界を弗の帶で卷かうと考へるのも別に不思議な事ではない。米國資本の増積が已まぬ限り將來色々な經濟問題が太平洋を中心として東南洋方面に起る事は、之を覺悟せねばならぬ所である。

米國經濟の見方 (畢)

初版印刷部数 1—4,000

大正十四年三月五日 印刷
大正十四年三月十日 發行

(通俗財政經濟大系) 第二十三編

「米國經濟の見方」

◇定價金壹圓五拾錢◇

製 複 許 不

著 者

和 田 信 夫

發 行 者

東京市本郷區弓町一ノ二五
茅 原 茂

印 刷 者

東京市小石川區久堅町一〇八
上 村 新 輔

發 行 所 日 本 評 論 社

東京市本郷區弓町一ノ二五

電話小石川一九七一
振替東京九六七八

印刷所 株式會社博文館印刷所
東京市小石川區久堅町一〇八

通俗財話

東京朝日新聞
經濟部編

增補 改訂 三十三年出版來

通俗財話は約半歳に亘つて東京朝日新聞經濟面に連載せられたものである。豫算、税制、公債、物價、通貨、金融、爲替、取引所、鐵道、海運、労働組合、産業組合等を始として、經濟及政治上の重要な事項は悉く此の一卷の内に收められてゐる。難解の經濟知識が總て通俗化されてゐるから、如何なる人でも面白く讀み容易に公私經濟の理論と實際を會得する事が出来る。是が特色の一である。而して本書説述の材料は極めて新しく、且つ權威たる可きもののみであるから、單に初學者ばかりでなく、其方面の學者でも玄人でも本書に依つて啓發される所は決して尠くない。是が特色の二である。されば本書は出版以來經濟常識養成の寶典として熱狂的な歡迎を受け注文殺到、就中、官廳、銀行、會社よりは一纏めに五百部、三百部と云ふが如き注文に接し、出版後半歳にて八萬部、一ヶ年にて十五萬部を突破し、今や數字、統計其他内容全班に大増補大改訂を施し十三年版を出版するに至つた。

定價 圓八拾錢 送料五十錢

國際財話

東京朝日新聞
經濟部編

通俗財話の姉妹篇

●紙育に於けるスチール株やアナコンダ株の騰落は翌日の我株式市場に反響がある。市俄古の日々の小麥相場は我國の小麥相場を一上一下せしむる力を持つて居る。此頃の爲替相場の暴落は既に本邦市場の輸入品の市價を著しく騰貴せしめてゐる。

●是等は一二の例に過ぎぬが、兎に角國際經濟の知識は我々の經濟生活に缺く可からざるものである。本書は此必要なる知識の普及を目的としたもので初學者に對して難解なる國際知識を平易に會得せしむるばかりでなく専門家に對しても相當の新知识を供給せんことを趣旨としたものである。

●即ち平易簡潔なる説明の内に、複雑難解なる國際經濟知識を其全般に亘つて會得せしめんことは、本書の最も注意し且つ努力した特色である。

定價 圓八拾錢 送料五十錢
圓五拾錢 送料八十錢

大震災經濟史

時事新報經濟部編

價3.00
送0.33

今次の大震災は經濟上各方面に大變動を來した。本社經濟部は此重大なるエポックの真相を永久に傳へんとの抱負の下に各専門の知識研究を完備せる資料を以て完全なる大震災經濟史を編輯して世に問ふこととなつた。内容は政府の應急諸政策を初め財政、金融、運輸交通、貿易、保險、取引市場、公私設市場、法人團體、勞働問題、倉庫、生絲、電氣、瓦斯、石炭、農業水産、重要商品、物價其他廣汎なる章に亙り、信據すべき數字統計を附録とした。苟も經濟眼を以て此災害と復興とを觀するものは、其要求する總てを本書に於て見出す可きを信じて疑はない。本社經濟部は此信念の下に、讀者諸君の御愛讀を希望してやまないものである。

——時事新報經濟部——

東京朝日記者 小田恪介著
佛國滯在法學士

財政の話

價一、二〇送、一二

法學士 早坂二郎著

經濟の話

價一、二〇送、一三

財界 新人と舊人

東京朝日新聞經濟部編

價1.80
送0.15

理窟も糸瓜もなく、唯フラフラそんなものを書いて見ようと言ふ事になり、東西兩朝日の經濟部の茶目共が代り番、こに筆を執つたわけ。マア申さばその邊の讀書子晩餐後のお茶うけにと言つた程のさころ。随つてあまり悪口は遠慮しようとの申合はせなんであつたんだが、何か一本御見舞せんさ腹の蟲が納まらぬと云つた連中揃ひさて、御本人の御氣に召す事ばかり申しては居りますまい。然し、馬を指して鹿と言つた覚えはないから、御本人が讀んで籍に觸るさころがあれば、憤慨する前に先づ自省せられた方がよいかもしれぬ。褒められてゐたら、遠慮なくおよろこびなさるべし。
——(序文の一節)——

大阪朝日 遠藤麟太郎著
經濟部長

銀行罪惡史

價一、七〇
送・一三〇
——十八版——

河瀬蘇北著

財界祕話

價二、〇〇
送・一五〇
——十二版——

通俗財政經濟大系全四十二卷

<p>第一篇 財政經濟とは何ぞや 「朝日」太田正孝著</p>	<p>第二篇 經濟政策の見方 「時事」下田將美著</p>	<p>第三篇 豫算の見方 「朝日」森田久著</p>	<p>第四篇 税の見方 「朝日」森田久著</p>
<p>第五篇 地方豫算と地方税の見方 「朝日」森田久著</p>	<p>第六篇 金融の見方 「朝日」西野喜與作著</p>	<p>第七篇 銀行の見方 「大朝」遠藤麟太郎著</p>	<p>第八篇 貿易の見方 「中外」新關莊藏著</p>
<p>第九篇 外國爲替の見方 「時事」山崎靖純著</p>	<p>第十篇 物價の見方 「時事」下田將美著</p>	<p>第十一篇 商品取引の見方 「一般商品」 「日々」根本十郎著</p>	<p>第十二篇 商品取引の見方 「重要商品」 「朝日」野田豊著</p>
<p>第十三篇 食糧問題の見方 「大朝」遠藤麟太郎著</p>	<p>第十四篇 相場取引の見方 「時事」三浦弘一著</p>	<p>第十五篇 會社の見方 「中外」小汀利得著</p>	<p>第十六篇 經濟團體の見方 「朝日」野田豊著</p>
<p>第十七篇 運輸交通の見方 「朝日」宇野木忠共著 「西野」喜與作</p>	<p>第十八篇 保険の見方 「朝日」宇野木忠著</p>	<p>第十九篇 植民及移民の見方 「大毎」松岡正男著</p>	<p>第二十篇 工場經營の見方 「時事」堀川淳一郎著</p>
<p>第二十一篇 労働問題の見方 「時事」下田將美著</p>	<p>第二十二篇 支那經濟の見方 「大朝」武内文彬著</p>	<p>第二十三篇 米國經濟の見方 「大朝」和田信夫著</p>	<p>第二十四篇 歐洲經濟の見方 「大毎」佐藤密藏著</p>

終

